

令和4年度指定

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

研究開発実施報告書（第3年次）【学際領域学科】



和歌山県立新宮高等学校 令和7年3月

## はじめに

本校が令和4年度より研究指定を受けている「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」の取組も、3年間の研究開発期間が終了しようとしています。研究指定を受けた当初から試行錯誤を繰り返しながら取組を進めてきましたが、令和7年度の「学彩探究科」開設に向かう中で、目指す人材像に沿う、分野横断的な学びと探究的な学びを取り入れたカリキュラムが構築され、具体的な実践内容が定まってきました。本報告書は、そうした経緯も含め、令和6年度を取組を中心にその成果や課題をまとめたものです。

この推進事業に応募するきっかけとなったのは、本校の核である普通科教育が、これからの社会で必要とされる力を育成できているか、活躍できる人材を育成できているかという課題意識からです。研究開発の分野は、本校が日本各地で活躍するリーダーやイノベーターを輩出してきた歴史から、「学際的な学びに重点的に取り組む学科」としました。研究開発では、学際的・探究的な学びを進めるカリキュラムの開発とともに、校内の体制づくりが進み、本校教育における、学際的・探究的な学びの位置付けが明確化されていきました。それは、本校が進学に重点を置いた地域の伝統校として得意としてきた「知識の習得」と、研究開発を進めてきた「学際的・探究的な学習」を両輪として、互いに循環させながら学びを進めていくという方向性です。

令和7年度に新設する「学彩探究科」は2クラス募集とし、県外からの募集も合わせて行いましたが、カリキュラムに魅力を感じ、この学科で学びたいと志願してくれた中学生も多く、幸先の良いスタートとなりました。3年間の研究開発の中で、すでに開設している学校設定科目「くまの学彩」での取組や「総合的な探究の時間」の実践、各教科・科目における探究的な学びを取り入れた授業などにより、在校生にも学際的・探究的な学びの芽生えを感じるところですが、これを「学彩探究科」でどのように発展的に実践していけるかが、3年間の研究指定後の本校の大きな課題となっています。

また、令和8年度には、隣接する県立新翔高等学校との統合を控えています。急速に進む少子高齢化の影響で、近年は両校とも生徒数が減少し、学校規模も著しく縮小している中での統合です。この学校再編と普通科改革への取組は、学校の特色化・魅力化としては同じ範疇のものです。別の課題意識から取り組み始め、別の年度にスタートを切ることから、先行する学彩探究科の立ち上げが、再編の成否に影響を及ぼすだけでなく、新しく誕生する地域で唯一の公立高等学校に、地元から信頼される学科として存在することに繋がらなければなりません。ちなみに、「学彩」は当て字で、様々な思いが注ぎ込まれています。「学彩」には、分野横断的な学びという「学際」の意味や、「多彩な学びを実現する」という思いが込められており、新宮高等学校に縁の深い「彩雲（あやぐも）」と繋がり、本校らしい新たな学びの創造も表したものになっています。

本校の「学彩探究科」への取組はまだ始まったばかりです。学際的・探究的な学びにより、生徒の力をより伸ばさせる指導や形態、内容の精査や深化を一層進めるとともに、統合校全体へのより広がりを持った取組にしていかなければなりません。本報告書をお読みになって、各位からの御意見・御助言をいただければ幸いです。

最後に、今回の事業推進にあたり、御支援と御指導をいただいた文部科学省をはじめ、県教育委員会、大学、関係機関、地元関係者、運営指導委員会、コンソーシアムやコーディネーターの皆様に厚く感謝申し上げます。

令和7年3月

和歌山県立新宮高等学校  
校長 下村史郎

## 目次

### はじめに

I	事業の概要	1
1.	研究の背景	2
2.	研究開発の目的・目標	3
3.	研究開発概要図	4
4.	ロジックモデル	5
5.	研究開発の概要	6
6.	事業の実施体制	7
7.	令和6年度の事業の実施日程	10
8.	令和6年度の事業の説明・広報	11
9.	令和6年度の成果普及のための取組	11
10.	指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	12
II	令和6年度の具体的な研究開発報告	13
1.	教育課程	14
2.	総合的な探究の時間	22
3.	学校設定科目「くまの学彩」	35
4.	授業研究（6つの資質・能力を育む授業）	42
III	運営指導員会報告	47
1.	第1回運営指導委員会	48
2.	第2回運営指導委員会	51
3.	第3回運営指導委員会	55
IV	学彩探究科・普通科(令和7年度設置)について	59
V	次年度以降の活動について	65
	本事業の成果と今後の課題について	66

# I 事業の概要

## 1. 研究の背景

---

本校は紀伊半島の南部、新宮市に位置する県立の普通科高等学校である。創立120年を超える歴史を持つ地域の伝統校として、新宮・東牟婁地方における教育や文化の中心的役割を担ってきた。当地方の最高学府の意味を込めて「熊野大学」と呼ばれていたこともある。現在は、各学年5クラス（3学年は6クラス）、生徒数583名である。生徒の約9割が進学希望で、昨年度は国公立大学に22名、私立大学に97名が進学した。部活動についても、多くの生徒が仲間とともに切磋琢磨し、全国大会や近畿大会等にも多数出場している。また、本校は国際交流にも力を入れており、海外の姉妹校との定期的な交流や、E S S部を中心とした海外とのオンライン交流等に積極的に取り組んでいる。

しかし、当地方では少子高齢化、過疎化が全国に先んじて進んでいる。当地方の中学校卒業生徒数はピーク時（平成元年度）の約半数となっており、さらに15年後には現在の約70%まで減ることが予想されている。加えて、地域経済の活性化や、近い将来起きるとされている南海トラフ大地震への対策等も地域の課題である。また新宮市は首都東京からの時間的距離が最も遠い市であるのみならず、県庁所在地の和歌山市までも車で3時間以上かかるなど、他地域との往来も簡単ではない。

これらの課題を抱える一方、「熊野」は、自然・文化・歴史が豊かに息づく地域であり、地域資源に恵まれている。「紀伊山地の霊場と参詣道」は世界文化遺産に登録され、近年は来訪者も増えている。「熊野」は『古事記』から近現代の文学まで、様々な作品の舞台となり、能や歌舞伎においてもバリエーションをもって描かれている。「熊野」は「熊野」ならではの精神性や文化を持ち、人を惹きつける。さらに近年、当地方では、盛んな林業を生かす形で木質バイオマス発電事業が開始されたり、ロケット発射場が整備されたりする等、科学分野での新たな取組も目立っている。このように、幅広い教育資源に恵まれた本校は、まさに分野の枠を超えた学際的な学びの実現にふさわしい場所であると考えられる。また、ICTが普及し、Society 5.0時代の到来が近づくなか、他地域との物理的な距離はもはやデメリットではない。

本校は、新宮・東牟婁地方においては勿論、「熊野」という和歌山県から三重県、奈良県にまたがる一文化圏において、地域の中核校として大きな期待や役割を担う。近隣に大学や大企業がない中で、まさに地域の教育機関として、①人材育成、②社会教育の機能、③研究の機能が求められている。学業や進路実現の面でも、部活動の面でも、私立高等学校や他地域の高等学校に進学しなくても十分な学びや活動が保障されるようにという地域からの願いは強い。地域の中核校として、地域社会を担う人材の育成のみならず、本校から日本や世界に羽ばたき、リーダーシップを発揮して世の中を牽引していく人材、イノベーターとして世の中を革新していく人材の育成が期待されている。

社会の諸課題の多くは、分野の枠を超えたものであり、それらに立ち向かい、対応していく力を育成するためには教科横断的な学びを実現する先進的なカリキュラムを開発、実践していく必要がある。この地域ならではの教育資源と、外部機関との連携に支えられ

る複合的・総合的な最先端の学習カリキュラムにより、地域から世界に羽ばたき、活躍する人材の育成を実現するために、学際的な学びを推進する学際領域学科の設置に向けて研究する意義は大きいと考える。

## 2. 研究開発の目的・目標

---

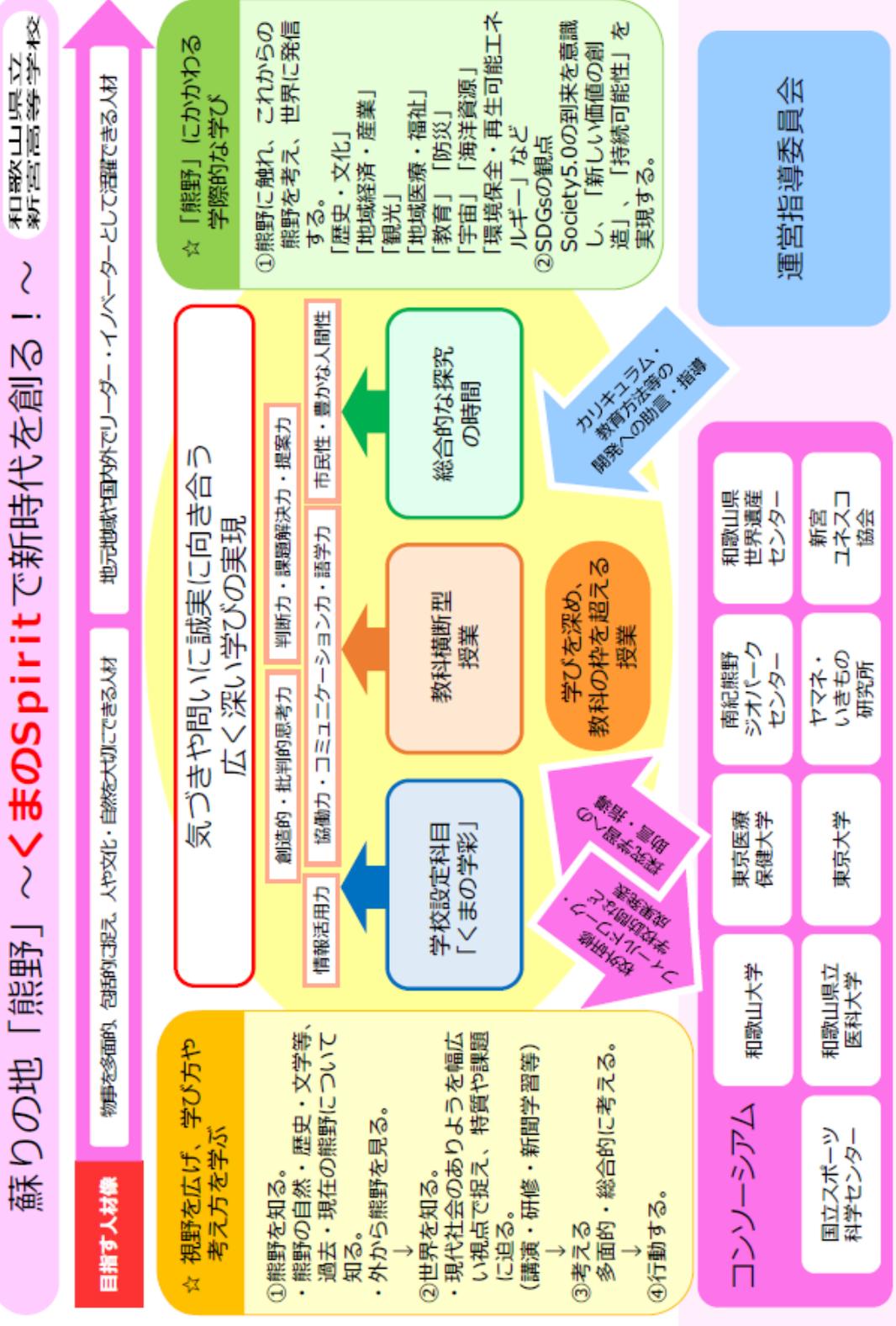
### (1) 学際領域学科における取組の目的・目標

学際領域学科での学びを通して、自身の気づきや問いに誠実に向き合い、視野を広げ、物事を多面的・包括的に捉えて、人や文化・自然を大切にできる生徒を育成する。より良い社会を創るため、周囲と連携・協働しながら地域社会を担い、「熊野」から日本や世界に羽ばたき、リーダーシップを発揮して世の中を牽引していきけるよう、またイノベーターとして世の中を革新していく存在となれるよう、多様な領域の連携を重視した学際性の高いカリキュラムを実践し、次のような資質・能力の育成を目指す。

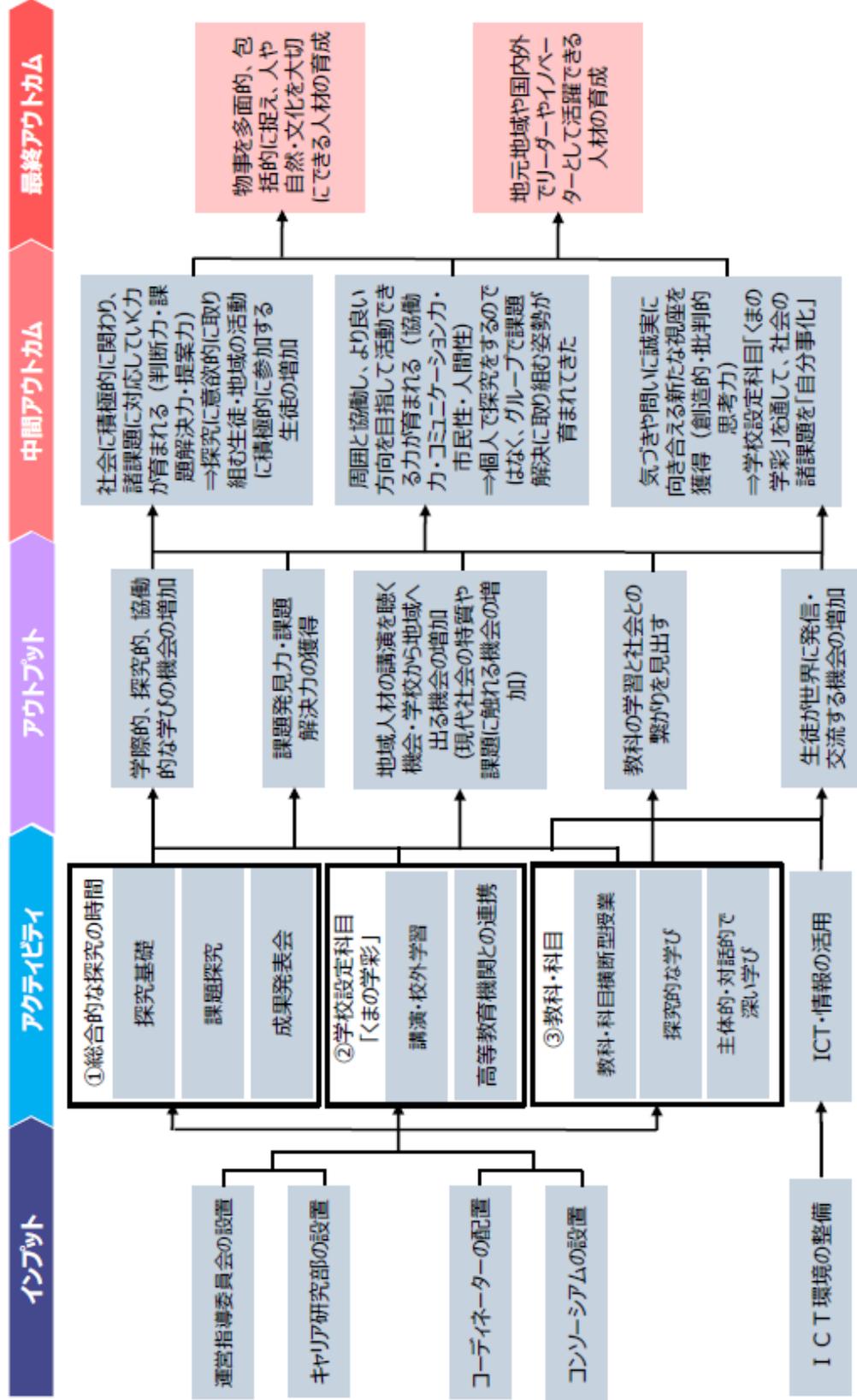
### (2) 育成を目指す資質・能力

- ①分野にとらわれない幅広い知識と豊富な技能を身に付け、それらを活用できる力。(実践力・判断力・語学力・コミュニケーション力)
- ②課題を見つけ、その解決に向けた取り組みを主体的に進められる力。(批判的思考力・課題解決力・提案力)
- ③自身と社会との接点を見出し、SDGsの観点を踏まえて、社会に積極的に関わっていかうとする力。(批判的思考力・実践力・市民性)
- ④強くしなやかで思いやりのある心を持ち、多様な他者とより良い方向を目指してともに活動できる力。(豊かな人間性・協働力・創造力)
- ⑤ICTを用いて的確に情報を活用し、Society 5.0時代を生き抜く力。(情報活用力)

和歌山県教育委員会 令和4年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）



# 和歌山県立新宮高等学校\_ロジックモデル



## 5. 研究開発の概要

---

本校は、『くまのSpirit』で新時代を創る！』をモットーに、学際的な学びを通して「熊野」から日本や世界に羽ばたき、リーダーシップを発揮して世の中を牽引していく、またイノベーターとして世の中を革新していく人材の育成を目指し、学際領域学科において、多様な領域の連携を重視した学際性の高い学びの実践に取り組む。具体的な取組として、次の3点を挙げる。

1点目は、「熊野」の地域資源を生かした探究学習である。この「熊野」ならではの精神性や文化、歴史、自然などを教育資源と捉え、総合的な探究の時間を中心に探究学習に取り組む中で、新時代を生きる視座の獲得と周囲と協働して社会に積極的に関わっていく力を養成する。現在でも和歌山県新宮市は首都東京から時間的距離が最も遠い市であると言われるが、ICTの普及で、遠方の大学や研究機関との連携も可能である。「熊野」に縁のある大学等の高等教育機関、研究機関、ユネスコ等によるコンソーシアムを構築し、連携協力体制を整備することで、学校だけではできない最先端の学びを取り入れ、探究学習を充実させる。

2点目は、学校設定科目「くまの学彩」を設定し、分野を超えた包括的・総合的な学びを実現する。この科目では、広い視野の獲得と考え方や学び方の習得を目指す。本校ではこれまで、本校出身で様々な分野で活躍されている方に講義をいただく「先輩が先生」や、フィールドワークを含めて地域について学びを深める学校設定科目「吉野熊野学」の実施などを長年行ってきた。これらの取組を生かし、外部講師による講演やフィールドワーク、教員による集中講座など、幅広い分野でのインプットの機会とそれをどう捉えるかを考える機会を設ける。その中で、熊野を知り、世界を知ることができるよう、探究活動も併せながら学ぶ。SDGsの視点やSociety 5.0時代の到来も意識させる。

3点目は、各教科・科目での教科横断型授業の計画的な実施である。総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」を軸として、他の教科・科目においても縦割りの学問領域に縛られることなく、教科・科目間で連携しながら教科横断的に学びを深めることができる授業を実践する。探究活動に必要な様々なスキルや関連知識、探究心をくすぐる学習活動にアプローチできるよう各教科の授業においても検討し、積極的に研究を進める。

## 6. 事業の実施体制

---

### (1) 学校全体の事業実施体制について

校長を本校における事業の統括責任者とし、教頭及び校務分掌におけるキャリア研究部（8名＋コーディネーター2名）が中心となって、事業を実施した。キャリア研究部は、部長と各学年から2名以上の部員で構成され、コーディネーターもキャリア研究部に所属している。

進路指導部とも連携を密にし、包括的に生徒のキャリア形成を支えていく体制を保持した。また、教務部と連携しながら学際的・探究的な学びを進めるカリキュラムの開発や、教科・科目等における探究学習の内容の精査等に取り組んだ。

研究開発・推進に関わる各取組については、必要に応じて校務運営委員会や職員会議に諮った。また、校内教職員で行う校内研修や職員会議等で取組についての説明を行った。

また、全校体制で事業に取り組むため、令和8年度に控える和歌山県立新翔高等学校との統合に向けた「再編準備委員会」においても、本事業関係の方向性や具体的な取組について多くの議論を重ねた。

### (2) コーディネーターの配置および活動内容

#### ①配置

2名を配置し、両名とも勤務は原則として週3日、1日あたり4時間の勤務とし、必要に応じて勤務日数を増減した。令和4年度当初に想定したコーディネーターが取り組む活動内容は以下の通りである。

#### 【1】学校及び外部とのコーディネート

外部の様々な機関と学校との連携コーディネート業務の全般を行う。学校設定科目「くまの学彩」や探究活動に伴う関係機関との連携、学校及び関係機関への情報提供、専門性をもつ指導者の発掘やマッチングなど、連携先の拡充に係る業務についても行う。

#### 【2】探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務

総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」での取組内容の企画や支援を行う。また、各探究活動や学習内容に係る専門家の招聘、県や地域が有する専門的な施設や設備を使用した授業の企画調整にもあたる。

#### 【3】生徒募集や広報活動に係る業務

生徒の募集や学校の教育活動の広報及び魅力化に係る業務全般を担当する。

②活動内容（令和6年度）

【1】総合的な探究の時間における生徒の探究のサポート

毎週金曜日の総合的な探究の時間において、生徒の探究学習について直接生徒に助言・伴走を行った。

【2】企画調整及び運営補助等に関する業務

第1回運営指導委員会、第2回運営指導委員会、第3回運営指導委員会の運営に関する補助の業務を行った。

③その他の業務（令和6年度）

【1】高校コーディネーター研修への参加

オンライン研修	①7月2日(火)、②8月30日(金)、③9月30日(月)、 ④11月14日(木)、⑤12月3日(火)
対面研修	①8月8日(木)・9日(金) 桜美林大学新宿キャンパス ②10月30日(水) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング本社 ③2月3日(月) 文部科学省東館3階講堂

【2】高校コーディネーター全国フォーラムへの参加 2月4日(火)

【3】エコシステム研究会への参加 8月28日(水)、12月15日(日)

(3) 運営指導委員会の体制及び取組

①体制

所属	氏名	役職
和歌山大学	丸山 範高	和歌山大学教育学部教授
和歌山大学	二宮 衆一	和歌山大学教育学部教授
和歌山県教育委員会	櫻井 卓馬	指導主事
和歌山県立医科大学	上野 雅巳	和歌山県立医科大学副学長
ヤマネ・いきもの研究所	湊 秋作	生物多様性研究センター客員研究員
新宮市役所	富田 英之	教育委員会企画委員

②取組

学校教育に専門的知識を有する者、学識経験者、関係行政機関の職員等6名によって組織し、先進的な学校設定科目の設置等のカリキュラム開発や、総合的な探究の時間における生徒の探究学習等の取組が目標実現に向けて着実に進められているか、事業の進捗状況を学期ごとに確認し、専門的見地から指導、助言及び評価をいただいた。

(4) コンソーシアムの体制および取組

①体制

機関名	代表者名
和歌山大学	丸山 範高 ・ 二宮 衆一
南紀熊野ジオパークセンター	本郷 宙軌
和歌山県世界遺産センター	田堀 国浩
東京大学	河野 龍也
東京医療保健大学	上田 優人
和歌山県立医科大学	上野 雅巳
ヤマネ・いきもの研究所	湊 秋作
新宮ユネスコ協会	中谷 剛
国立スポーツ科学センター	久木留 毅

②取組

コンソーシアムは高等教育機関、研究機関を中心として構成している。また、特定の分野に偏ることなく、様々な分野の研究者、有識者に協力をいただくことで、複合的な視点をもった連携・協力体制を構築する。さらに、熊野地方ならではの地域の教育資源を生かした特色ある取組に向けて、世界遺産センターや新宮ユネスコ協会なども含めたコンソーシアムとして構成している。探究活動における生徒の課題設定や活動の進め方等について、様々な角度から指導、助言をいただいた。

7. 令和6年度の事業の実施日程

実施日程	事業項目
4月	
5月	
6月	○公開授業（溝上慎一先生授業研修会①） ○第1回運営指導委員会 ○新学科説明会（中学校職員対象）
7月	○先進校視察（北海道岩見沢東高等学校、北海道札幌啓成高等学校） ○新学科説明会（中学生・保護者対象）
8月	○オープンスクール ○新学科説明会（中学生・保護者対象）
9月	○研究授業（6つの資質・能力を育む授業） ○先進校視察（和歌山県立向陽高等学校） ○新学科説明会（中学生・保護者対象） ○高校魅力化評価システム
10月	○研究授業（6つの資質・能力を育む授業） ○先進校視察（和歌山県立向陽高等学校） ○新学科説明会（中学生・保護者対象） ○授業アンケート
11月	○総合的な探究の時間（2学年）中間発表会（ポスター発表会） ○研究授業（6つの資質・能力を育む授業） ○公開授業（溝上慎一先生授業研修会②） ○第2回運営指導委員会 ○新学科説明会（中学生・保護者対象）
12月	○先進校視察（和歌山県立向陽高等学校） ○学校訪問対応（伊丹市立伊丹高等学校）
1月	○先進校視察（和歌山県立向陽高等学校）
2月	○総合的な探究の時間（1学年・2学年）成果発表会Ⅰ ○第3回運営指導委員会 ○先進校視察（富士市立高等学校、和歌山県立日高高等学校） ○学校訪問対応（愛知県立成章高等学校） ○授業アンケート
3月	○総合的な探究の時間（2学年）成果発表会Ⅱ

## 8. 令和6年度の事業の説明・広報

---

- 令和6年6月5日(水)第1回、令和6年8月7日(水)第2回【両校合同】、  
令和6年8月28日(水)第3回【両校合同】、令和6年11月7日(木)第4回、  
令和7年1月27日(月)第5回【両校合同】、令和7年2月20日(木)第6回  
本校学校運営協議会（及び和歌山県立新翔高等学校との両校合同学校運営協議会）  
にて、新学科の設置について、並びに本事業の取組状況を説明し、協議した。
- 令和6年6月～7月  
地元・近隣の各中学校を訪問し、リーフレットを活用しながら、教職員に新学科の  
設置について、並びに本事業の取組状況を説明した。
- 令和6年8月5日(月)  
本校オープンスクールにて、中学生・保護者・教職員に新学科の設置について、並  
びに本事業の取組状況を説明した。
- 令和6年9月～令和7年2月  
地元・近隣の各中学校での学校説明会で、リーフレットを活用しながら新学科の設  
置について、並びに本事業の取組状況を説明した。
- 令和6年10月・11月  
地域の方々との協議会で、新学科の設置について、並びに本事業の取組状況を説明  
した。
- 令和6年11月・12月  
地元・近隣の各中学校を訪問し、教職員に新学科の設置について説明し、意見交換  
した。
- 令和6年4月～令和7年2月  
新学科設置について、また本事業の特色ある取組について、地元紙に資料提供し、  
記事掲載をしていただいた。

## 9. 令和6年度の成果普及のための取組

---

- 総合的な探究の時間の中間発表会を11月15日(金)に本校各教室等で行った。  
また、総合的な探究の時間の成果発表会Ⅰを2月13日(木)に、成果発表会Ⅱ(代表  
グループによる発表)を3月13日(木)に実施した。今年度は、運営指導委員等の関  
係者のみならず、学校設定科目「くまの学彩」で講演をしていただいた方々や地元・  
近隣の小・中学校の先生方にご案内するとともに、一般開放の形式で実施し、生徒の  
探究の成果を外部の方々にも参観していただける機会を設けた。
- 今年度は積極的に先進校を訪問したり、高校コーディネーター研修に教職員も参  
加したりすることで、他府県の管理機関や高等学校と連携する機会を得た。今後は互

いの取組の成果を共有するなど、連携を深めたい。

- 「対日理解促進交流プログラム韓国事業」等の国際交流プログラムに積極的に参加し、本校での学びの成果を校外に向けて発表する機会とした。これらの機会に他校の生徒と交流する中で、学習の成果をアウトプットするだけでなく、他校の取組についても知り、さらなる気づきを得たり、より視野を広げたりするなど、学びを深めることにつながった。
- 学校通信をホームページに掲載し、総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」の取組の内容を発信した。
- 本校の特色ある取組について、地元紙に資料提供し、記事掲載をしていただいた。
- 中学校での学校説明会において、本校の総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」の学びを紹介した。
- Instagramのアカウントを開設し、本校の探究的な学びを定期的に発信した。

#### 1.0. 指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

##### (1) 関係機関との連携継続

コンソーシアムとの連携・協力体制については、指定期間中にコーディネーターによる人脈づくりや連携の実績を積み重ねることで確固たる基盤を形成し、指定終了後も引き続き関係機関と連携した教育活動を行うことができる体制をつくる。

##### (2) 校内体制の整備

- 新学科の充実と令和8年度の再編に向け、指定終了後も再編準備委員会を中心にカリキュラムや教育内容の定期的な見直しや改善を行う。
- 今後、キャリア研究部を中心に校内改革を進める組織力の強化を図る。新学科設置後も、各分掌や各教科の連携を強化し、学際的・探究的な学びを深めるカリキュラムや教育を実現できるよう、必要に応じて校内体制の整理、見直しを検討する。
- 育成を目指す資質・能力を着実に育める授業や学際的な観点を意識した授業、総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」に全教員が関わり、探究学習を様々な場面で行う体制をつくる。その中で、研究授業等による授業改善や校内研修等による学校教育活動のアップデートを図る機会を定期的に設けていく。
- コーディネーターの業務を着実に引き継ぐとともに、その業務の校内組織への位置づけや業務の理解を進め、外部との連携を促進する。
- 公的機関や民間の助成金を申請するなどして、指定終了後の取組を継続するためにかかる費用を確保する。

## Ⅱ 令和6年度の具体的な 研究開発報告

## 1. 教育課程

---

### (1) 令和4年度の検討内容

令和4年度5月よりビジョン委員会を設置し、主に以下の2点①・②を踏まえた上で、学際的な学び・文理融合型の学びを実現するためには、どのような教育課程を編成することが望ましいかを検討してきた。さらに①に関して、教科横断的な取組や科目設定の端緒を探るため、ビジョン委員会が中心となって教科横断型授業の試行にも取り組んだ。

#### ①学際的な学びを実現できるような教育課程

現状の教育課程においては2年次より文系・理系のコースに分かれてしまうため、選択科目において制約がある。実社会で様々な課題に接する中で必要となる教科・科目を選択できるようにするなど生徒の多様な学習ニーズに対応可能な仕組みを考える。

#### ②幅広い進路希望に対応できる教育課程

本校生徒の進路希望は多岐にわたっている。また、令和4年度入学生より新教育課程が始まり、令和7年度より大学入学共通テストも大幅に変更されるため、今後の大学入試の動向も踏まえた科目設定が必要である。

### (2) 令和5年度の実施（令和5年度・令和6年度入学生の教育課程）

#### ①学際的な学びを実現できるような教育課程

令和5年度入学生より、これまでの2年次からの文系・理系のコース制を廃止して、生徒が学びたい科目を選択して一人ひとりが自分に合ったカリキュラムをデザインできるようにした（2年次は11単位、3年次は19単位の科目を選択）。ただし、これは大幅な変更となり、生徒や保護者の不安が大きくなることが予想されたため、進路希望に応じて、科目選択のパターンを3つ提示して対応した。

具体的には、パターン1は「英語・国語・社会を重点的に学習し、就職や短期大学、各種専門学校への進学や私立大学文系学部への進学に対応」、パターン2は「英語・国語・社会を重点的に学習し、国公立大学、私立大学の文系学部への進学に対応（大学入学共通テスト受験を想定した学び）」、パターン3は「数学・理科を重点的に学習し、国公立大学、私立大学の理系学部への進学に対応（大学入学共通テスト受験を想定した学び）」、というように生徒が学びたい科目を選ぶことのできるようなデザインにしながらも、各自が想定する進路希望に応じて必要となる科目を選択できるようにした。

## ②幅広い進路希望に対応できる教育課程

1年次は必修科目を中心に配置し、2年次・3年次は学校設定科目も含めた選択群を設定している。令和4年度当初に考えていた教育課程から大きく変更した点は以下の3点である。

【1】 2年次に全員が数学Bを履修する形であったが、生徒間の学力差が大きいという現状を踏まえると、1年次までの学び直しをできるような科目を設定した方がよいという観点から、基礎数学の講座を開設することとした。

【2】 別の科目選択群で化学があり、現状も化学総合を選ぶ生徒は非常に少ないので学際的な学びの観点からも別の科目の設定について議論した。その中で、2年生は部活動の中心となる学年で、体育が2単位であることから、特に運動部の活動の充実のことも踏まえて、生徒の希望に応えられるような科目の設定として体育探究を設定するという結論に至った。

令和7年度の大学入学共通テストでは新たに情報Ⅰの科目が設置されるが、急速に進展する情報社会で活躍できる力をつけるためには、1年次の2単位だけでなく2年次にも情報Ⅰの内容を踏まえた探究や演習ができるような科目が必要であるとして、学校設定科目の情報活用を設けるという結論に至った。今後、情報Ⅱを設けることについても検討している。

【3】 令和7年度の大学入学共通テストの公民科目においては、公共+政経もしくは公共+倫理のセットでの受験となるため、2年次に公共、3年次に政経か倫理どちらかを必ず学習できるような形に変更した。

## (3) 令和6年度の検討内容（令和7年度以降入学生の実践教育課程）

令和7年度より、本校は学彩探究科と普通科の2学科となる。新たに設置する学彩探究科は、学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等（令和3年3月31日公布）により設置が可能となった「普通教育を主とする学科」のうち、「学際領域に関する学科」に該当する。「学彩」には、分野横断的な学びという「学際」の意味や「多彩な学びを実現する」という思いが込められている。また、本校に縁の深い「彩雲（あやぐも）」とつながり、新宮高等学校らしい新たな学びの創造も表している。

両学科ともに普通教育を主としながら、総合的な探究の時間や各教科・科目等における探究学習を中心とした教育活動全般を通して、探究的な学びを充実させていく。

また、本校は現在1コマ45分授業で週35コマの授業展開としているが、令和8年度以降は、近隣の和歌山県立新翔高等学校との再編によって、1コマ50分授業で週33コマの授業展開を予定している。

#### ①学彩探究科の特色

学彩探究科の教育課程は、令和5年度に設定した学校設定科目「くまの学彩」を各学年で1単位ずつ設定しているのが特徴である。また、「もっと知りたい」を大切にする学びをコンセプトとしており、学際的・探究的な学びの機会を充実させていく。その中で、変化の激しい現代社会でリーダーやイノベーターとして活躍するために必要な資質・能力を「問題発見力」「課題解決力」「創造力」「表現力」「主体性」「協働力」とし、この6つの資質・能力を各教科・科目の授業と、総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」での学びを相互に関連づけながら育てていく。進路希望も国公立大学や難関私立四年制大学を視野に入れ、近年増加している総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できるような実力をつけることを目標としている。

#### ②普通科の特色

普通科では、学力の基礎を固め、幅広い知識を身につけられるような科目設定をしており、2年次以降の選択科目の中にスポーツ探究や芸術が含まれているのが特徴である。また、コンセプトを「理解できた」を大切にする学びとしており、教科書の内容をしっかりと理解し、生徒が理解できた喜びを感じられるよう丁寧に授業を進めることを想定している。また、各教科の授業や総合的な探究の時間の取組の中で、自ら課題を設定し解決する経験や他者と協働する場面を設定し、これからの社会で活躍できるような力をつけていくことを目標とする。進路希望も就職・公務員、専門学校、私立四年制大学など多岐にわたることを想定している。

[ 令和4年度入学生 教育課程表 ]

令和4年度入学生教育課程表

普通科

和歌山県立新宮高等学校 全日制

学科・類型		普通科										選択上の注意点				
教科等	科目等	標準 単位数	1年 A類B類	α			β			履修単位数	履修単位数					
				2年	3年		2年	3年	履修単位数							
				α1	α2											
国語	現代の国語	2	2								2	14	1年次 ※は1科目選択			
	言語文化	2	3								3					
	論理国語	4		2	2	2	2	4	18	2	2			4		
	文学国語	4		2	2	2	2	4	19							
	古典探究	4		2	2	2	3	4,5		2	3			5		
※国語探究					2			0,2					2年次 <α> ○より1科目選択 △より1科目選択(芸術は継続科目) <β> ☆はいずれかをセットで選択			
地理歴史	地理総合	2	2								2	11	4	3年次 <α1>選択生 ●より1科目選択(継続科目を選択) ◎より1科目選択 (芸術は継続科目)		
	地理探究	3		○	3				0,3							
	歴史総合	2	2													
	世界史探究	3		○	3				0,3							
	日本史探究	3		○	3				0,3							
※世界史研究					●	4	●	4	4							
※日本史研究					●	4	●	4	4							
※地理研究					●	4	●	4	4							
公民	公民	2		2					2	2	2	5	5	3年次 <α1>選択生 ●より1科目選択(継続科目を選択) ◎より1科目選択 (芸術は継続科目)		
	倫理	2					◎	3	0,3		★				3	0,3
政治・経済	2						◎	3	0,3		★	3	0,3			
数学	数学Ⅰ	3	4						4		4	14	21	<α2>選択生 ●より1科目選択(継続科目を選択) ◎より1科目選択 ▽より1科目選択		
	数学Ⅱ	4		4					4		4					
	数学Ⅲ	3								◇	4				0,4	
	数学A	2	2						2		2					
	数学B	2		2					2		2					
	数学C	2							2	1	2				3	
※数学探究					2			0,2			2	2				
※数学探究2							4	0,4		◇	4	0,4				
※数学探究3								0,2			2	2				
理科	物理基礎	2								☆	2		0,2	20	◆1または◆2をセットで継続科目を選択	
	物理	4								☆	2	◆1	2			0,4
	化学基礎	2	2						2				2			
	化学	4								4			4			
	生物基礎	2		2					2	☆	2		0,2			
	生物	4								☆	2	◆2	2			0,4
	地理学基礎	2	2						2				2			
	※物理探究								▽	2		◆1	3			0,3
	※化学探究								▽	2			3			3
	※生物探究											◆2	3			0,3
※地学探究							▽	2								
※理科探究					2			0,2								
※化学総合			△	2				0,2								
保健	体育	7~8	3	2		3	2	7,8	9		2	2	7	9		
	体育探究			△	2			0,2	10							
	保健	2	1		1			2	11		1		2			
音楽美術書道	音楽Ⅰ	2	※	2				0,2					0,2	2		
	音楽Ⅱ	2		△	2			0,2								
	音楽Ⅲ	2				▲	2	0,2								
	美術Ⅰ	2	※	2				0,2	2				0,2			
	美術Ⅱ	2		△	2			0,2	4							
	美術Ⅲ	2				▲	2	0,2	6							
	書道Ⅰ	2	※	2				0,2					0,2			
書道Ⅱ	2		△	2			0,2									
書道Ⅲ	2				▲	2	0,2									
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4					4					4	20		
	英語コミュニケーションⅡ	4		5				5		5			5			
	英語コミュニケーションⅢ	4				5	5	5	20		5		5			
	論理・表現Ⅰ	2	2					2	22				2			
	論理・表現Ⅱ	2		2				2		2			2			
論理・表現Ⅲ	2				2	2	2			2		2				
※英語探究					2		0,2					2				
家庭	家庭基礎	2		2				2	2	2		2	2			
情報	情報Ⅰ	2	2					2	2				2	2		
	※情報活用			△	2			0,2	4							
	※プログラミング入門					▲	2	0,2	6							
共通科目計			33	33	33	33		99		33	33		99			
専門科目計																
合計			33	33	33	33		99		33	33		99			
ホームルーム活動			1	1	1	1		3		1	1		3			
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1		3		1	1		3			
総合計			35	35	35	35		105		35	35		105			

[ 令和5年度入学生 教育課程表 ]

令和5年度入学生教育課程表

普通科		和歌山県立新宮高等学校 全日制					備考		
各教科・科目等		標準単位数	1年次 A類・B類	2年次	3年次	履修単位数	教科別履修単位数	選択上の留意点	
教科等	科目等								
共通教科・科目	国語	現代の国語	2	2		2	13 15 17 19	1年次 ※は1科目選択  2年次 ○より1科目選択 ▽より1科目選択 ☆は ①文学国語+芸術Ⅱ ②文学国語+情報活用 ③文学国語+体育探究 ④化学 から1パターン選択 (芸術Ⅱは芸術Ⅰの継続科目を履修)  □は ①地理探究 ②世界史探究 ③日本史探究 ④物理+数C ⑤生物+数C から1パターン選択  3年次 ●より1科目選択 ■より1科目選択 (継続科目を履修) ▲より1科目選択  (継続科目を履修) ◆より1科目選択 ★より1科目選択 ▼は ①数探2+理探2 ②数学探究2 ③数学Ⅲ ④数学探究4 から1パターン選択 ◎より1科目選択 (芸術Ⅲは芸術Ⅱの継続科目を履修)	
		言語文化	2	3		3			
		論理国語	4		2	2			4
		文学国語	4		☆ 2	▲ 2			0.4
		古典探究	4		2	2			4
	※国語探究				★ 2	0.2			
	地理歴史	地理総合	2	2		2	4 11		
		地理総合	3		□ 3	0.3			
		歴史総合	2	2		2			
		世界史探究	3		□ 3	0.3			
		※世界史研究	3		□ 3	0.3			
		※日本史研究				■ 4			0.4
	公民	公倫政治・経済	2		2	2	5		
		政治・経済	2			● 3			0.3
		政治	2			● 3			0.3
	数学	数学Ⅰ	3	4		4	14 18 21		
		数学Ⅱ	4		4	4			
		数学Ⅲ	3			▼ 4			0.4
		数学A	2	2		2			
数学B		2		▽ 2	0.2				
数学C		2		□ 1	★ 2	0.2,3			
※基礎数学		2		▽ 2	0.2				
※数学探究1					▼ 2	0.4			
理科	物理基礎	2		△ 2	0.2	6 8 9 12 22			
	物理	4		□ 2	▲ 2		0.4		
	化学基礎	2	2		2				
	化学	4		☆ 4	0.4				
	生物基礎	2		△ 2	0.2				
	生物	4		□ 2	▲ 2		0.4		
	地学基礎	2	2		2				
	※物理研究				◆ 2		0.2		
	※生物研究				◆ 2		0.2		
	※化学研究				■ 4		0.4		
芸術	音楽Ⅰ	2	※ 2		0.2	2 4 6			
	音楽Ⅱ	2		☆ 2	0.2				
	音楽Ⅲ	2			◎ 2		0.2		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4		4	18 20			
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4				
	英語コミュニケーションⅢ	4			4		4		
	論理・表現Ⅰ	2	2		2				
	論理・表現Ⅱ	2		2	2				
	論理・表現Ⅲ	2			2		2		
	※英語探究				◆ 2		2		
	家庭	家庭基礎	2		2		2	2	
	情報	情報Ⅰ	2	2			2	2	
		※情報活用	2		☆ 2		0.2	4	
※プログラミング入門		2			◎ 2	0.2	6		
共通科目計			32	32	32	96	96		
学校設定科目	※くまの学彩Ⅰ	1	1		1	3			
	※くまの学彩Ⅱ	1		1	1				
	※くまの学彩Ⅲ	1			1	1			
学校設定科目計			1	1	1	3	3		
合 計			33	33	33	99	99		
示 一 ム ル ム 活 動			1	1	1	3	3		
綜 合 的 な 探 究 の 時 間			1	1	1	3	3		
総 計			35	35	35	105	105		

[ 令和6年度入学生 教育課程表 ]

令和6年度入学生用教育課程表

普通科		和歌山県立新宮高等学校 全日制						備考				
各教科・科目等		標準単位数	1年次 A類・B類	2年次	3年次			履修単位数	教科別履修単位数	選択上の留意点		
教科等	科目等				①	②	③					
共通教科・科目	国語	現代の国語	2	2				2	13 18 20	1年次 ※は1科目選択  2年次 ○より1科目選択 ▽より1科目選択 ☆は ①文学国語＋芸術Ⅱ ②文学国語＋情報活用 ③文学国語＋体育探究 ④化学 から1パターン選択 (芸術Ⅱは芸術Ⅰの継続科目を履修)		
		言語文化	2	3				3				
		論理国語	4		2	2	2	2			4	
		文学国語	4		☆ 2	3	2				0,4,5	
		古典探究	4		2	2	3	2			4,5	
	※国語探究					2		0,2				
	地理歴史	地理総合	2	2				2			4 11	☆は ①文学国語＋芸術Ⅱ ②文学国語＋情報活用 ③文学国語＋体育探究 ④化学 から1パターン選択 (芸術Ⅱは芸術Ⅰの継続科目を履修)
		地理探究	3		□ 3			0,3				
		歴史総合	2	2				2				
		世界史探究	3		□ 3			0,3				
		日本史探究	3		□ 3			0,3				
		※世界史研究					■ 4	■ 4				
	※日本史研究					■ 4	■ 4	0,4				
	※地理研究					■ 4	■ 4	0,4				
	公民	公共	2	2				2			4	□は ①地理探究 ②世界史探究 ③日本史探究 ④物理＋数C ⑤生物＋数C から1パターン選択
		倫理	2			● 2	● 2	● 2				
	数学	政治・経済	2					2			0,2	
		数学Ⅰ	3	4				4			14 18 21	3年次 ■より1科目選択(継続科目を履修) ●より1科目選択 ▼より1科目選択 ◎より1科目選択 (芸術Ⅲは芸術Ⅱの継続科目を履修) ◆は ①物理＋物理研究 ②生物＋生物研究 から1パターン選択 (2年次からの継続科目を履修)
		数学Ⅱ	4	4				4				
		数学Ⅲ	3					▼ 4				
数学A		2	2				2					
数学B		2		▽ 2			0,2					
数学C		2		□ 1		2	2	0,2,3				
※基礎数学				▽ 2			0,2					
※数学探究					2		0,2					
※数学探究2						4	0,4					
※数学探究3						2	0,2					
※数学探究4						▼ 4	0,4					
理科	物理基礎	2		△ 2			0,2	8 19	3年次 ■より1科目選択(継続科目を履修) ●より1科目選択 ▼より1科目選択 ◎より1科目選択 (芸術Ⅲは芸術Ⅱの継続科目を履修) ◆は ①物理＋物理研究 ②生物＋生物研究 から1パターン選択 (2年次からの継続科目を履修)			
	物理	4		□ 2		◆ 2	0,4					
	化学基礎	2	2				2					
	化学	4		☆ 4			0,4					
	生物基礎	2		△ 2			0,2					
	生物	4		□ 2			◆ 2			0,4		
	生物学基礎	2	2				2					
	※物理研究						◆ 2			0,2		
	※生物研究						◆ 2			0,2		
	※化学研究						3			0,4		
※理科探究				2	2		0,2					
保健	体育	7～8	2	2	3	3	3	7	9 11			
	※体育探究			☆ 2			2					
芸術	保健	2	1	1				2				
	音楽Ⅰ	2	※ 2					0,2	2 4 6			
	音楽Ⅱ	2		☆ 2				0,2				
	音楽Ⅲ	2				◎ 2		0,2				
	美術Ⅰ	2	※ 2					0,2				
	美術Ⅱ	2		☆ 2				0,2				
	美術Ⅲ	2				◎ 2		0,2				
	書道Ⅰ	2	※ 2					0,2				
書道Ⅱ	2		☆ 2				0,2					
書道Ⅲ	2				◎ 2		0,2					
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4					4	18 20			
	英語コミュニケーションⅡ	4		4				4				
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	4	4				
	論理・表現Ⅰ	2	2					2				
	論理・表現Ⅱ	2		2				2				
	論理・表現Ⅲ	2			2	2	2	2				
※英語探究				2			2					
家庭	家庭基礎	2		2				2	2			
	情報	2	2					2				
くまの学彩	※情報活用	2		☆ 2				0,2				
	※プログラミング入門	2					◎ 2	0,2				
	共通科目計		32	32	30	30	30	94				
	学校設定科目計		1	1	1	1	1	3				
ホームルーム活動		33	33	31	31	31	97	97				
総合的な探究の時間		1	1	1	1	1	3	3				
総合		1	1	1	1	1	3	3				
総合		35	35	33	33	33	103	103				



[ 令和7年度入学生 教育課程表 (普通科) ]

令和7年度入学生教育課程表

普通科		和歌山県立新宮高等学校 全日制							
各教科・科目等		標準単位数	1年次	2年次	3年次	履修単位数	備考		
教科等	科目等						教科別履修単位数	選択上の留意点	
共通教科・科目	国語	現代の国語	2	2		2	13 15 17 19	1年次 ※は1科目選択	
		言語文化	2	4		3			
		論理国語	4		☆ 2,3	2			4
		文学国語	4		☆ 2	▲ 2			0,4
		※教養国語	4			2			4
	地理歴史	地理総合	2	2			2	4 11	2年次 ☆は ①論理国語＋文学国語 ②化学 ③生物 から1パターン選択 □より1科目選択 △より1科目選択 ○より1科目選択
		地理探究	3		□ 3		0,3		
		歴史総合	2	2			2		
		世界史探究	3		□ 3		0,3		
		日本史探究	3		□ 3		0,3		
		※世界史研究				■ 4	0,4		
		※日本史研究				■ 4	0,4		
		※地理研究				■ 4	0,4		
		※教養社会				★ 2	0,2		
	公民	公倫共理	2		2		2	5	3年次 ●より1科目選択 ■より1科目選択 (地歴は継続科目を履修) ▲より1科目選択
		政治・経済	2			● 2	0,3		
		政治・経済	2			● 2	0,3		
	数学	数学 I	3	4			4	14 18 21	(継続科目を履修) ◆より1科目選択 ★は ①教養国語＋教養社会 ②教養数学＋教養社会 ③理科研究 より1科目選択
		数学 II	4		4		4		
		数学 III	3			■ 4	0,4		
		数学 A	2	2			2		
		数学 B	2		□ 3		0,2		
		数学 C	2			◆ 2	0,2,3		
		※数学探究				■ 4	0,4		
	※教養数学				▼ 4	0,2			
	理科	物理基礎	2		△ 2		0,2	6 8 9 15	◎より1科目選択
		物理	4				0,4		
		化学基礎	2	2			2		
		化学	4		☆ 3	▲ 2	0,5		
		生物基礎	2	2			0,2		
		生物	4		☆ 3	▲ 2	0,5		
		地学基礎	2		△ 2		0,2		
	※理科研究				★ 4	0,4			
	※教養理科				◆ 2	0,2			
	保健	体育	7～8	2	2		3	9 13	
		※スポーツ探究 I			○ 2		0,2		
		※スポーツ探究 II				◎ 2	0,2		
	保健	2	1	1			2		
	芸術	音楽 I	2	※ 2			0,2	2 4 6	
		音楽 II	2		○ 2		0,2		
		音楽 III	2			◎ 2	0,2		
		美術 I	2	※ 2			0,2		
美術 II		2		○ 2		0,2			
美術 III		2			◎ 2	0,2			
書道 I		2	※ 2			0,2			
書道 II	2		○ 2		0,2				
書道 III	2			◎ 2	0,2				
外国語	英語コミュニケーション I	3	4			4	18 20		
	英語コミュニケーション II	4		4		4			
	英語コミュニケーション III	4			4	4			
	論理・表現 I	2	2			2			
	論理・表現 II	2		2		2			
	論理・表現 III	2			2	2			
※教養英語				2	2				
家庭	家庭基礎	2		2		2	2		
情報	情報 I	2	2			2	2		
	※教養情報	2			◆ 2	0,2	4		
共通科目計			32	30	30	92	92		
生徒選択科目・科目	※くまの学彩 I	1	1			1	3		
	※くまの学彩 II	1		1		1			
	※くまの学彩 III	1			1	1			
学校設定科目計			1	1	1	3	3		
ホームルーム活動			1	1	1	3	3		
総合的な探究の時間			1	1	1	3	3		
総合計			35	33	33	101	101		

## 2. 総合的な探究の時間

---

### (1) 令和4年度の検討内容・取組

令和4年度は、各学年とも本校の従来の指導計画に基づいて総合的な探究の時間を実施し、本校の課題や改善が必要な点を検証した。主な課題・要改善点は以下の通りである。

- ①正担任1人が各クラス(約40人)を担当するため、きめ細やかな指導が困難である。
- ②生徒の興味・関心に基づいたテーマがなかなか見つからない。
- ③探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない。(単なる調べ学習で終わってしまう生徒が多い。)
- ④情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている。
- ⑤生徒にとって、ポスター発表が活動のゴールになってしまっている。
- ⑥総合的な探究の時間をどのように評価するか。

また、令和4年度には、令和5年度より先行実施の学校設定科目「くまの学彩」の試行的な取組を総合的な探究の時間内で行った。試行的な取組については、以下の通りである。

#### ○国連セミナー 令和4年7月8日(金)

元国連WFPアジア地域局長の忍足謙朗氏を招いた。事前学習では同氏の活動ビデオを各クラスで視聴、当日は体育館で全体講演後に別室で有志による交流会を設定した。交流会には多数の生徒が出席し、生徒たちには非常に好評だった。講演会の内容だけでなく、事前学習の大切さを実感できた。

#### ○SDGsカードゲーム 令和4年7月15日(金)

「SDGs de 地方創生」公認ファシリテーターの本校卒業生に依頼。他の4名のファシリテーターの方々とともに1学年で実施した。SDGsや地方創生の紹介とともにカードゲームを展開した。生徒たちの反応も良く、楽しく学べるという意味で非常に有意義な時間であった。

#### ○SDGs&地方創生あわじ・とくしま体験学習

令和4年8月21日(日)、22日(月)

課外での体験学習として夏休みに実施した。1・2学年を対象に、7月に希望者を募り、抽選で参加者30名を決定し、28名(2名がコロナ関連で不参加)が参加した。バス1台での移動で、感染症対策を意識しながらの実施となったが、初日は淡路島のタネノチカラ「Seedbed」にて、SDGs研修プログラムを受講。「土」を中心に開墾体験なども経験した。2日目は、徳島県神山町で先

進のIT企業誘致等による町おこしの様子を視察した。この取組も事前学習を2日間実施、SDGsのビデオ視聴と神山町の様々な取組について事前にレクチャーし、現地での質問事項等をするといった準備をさせた。現地での研修内容の記録や事後の感想を書かせる指導も行ったが、生徒たちは非常に意欲的で実施の意義は十分あったと考えられる。

## (2) 令和5年度の検討内容・取組

令和5年度は、令和4年度に挙げられた課題や改善点を踏まえて、1学年から3学年までの年間指導計画をたて、キャリア研究部長の統轄のもと、各学年に配置されたキャリア研究部員が当該学年の総合的な探究の時間の主担当となり、課題の解決に向けてのアプローチを行った。

また、従来は各学年の総合的な探究の時間が学年の裁量に任されていた点が多く、組織的に総合的な探究の時間を計画・実施できていなかったため、原則毎週月曜日にキャリア研究部会を定例で実施し、各学年の総合的な探究の時間の進捗状況の管理や情報共有を行った。

令和4年度に挙げられた課題・改善点に対する令和5年度の取組と残る課題については、以下の通りである。

### ①正担任1人が各クラス(約40人)を担当するため、きめ細やかな指導が困難である。

令和5年度も、各学年の正担任が自身のクラスの総合的な探究の時間を担当したが、課題の解決に向けて、副担任、キャリア研究部、コーディネーターが連携し、各クラスの総合的な探究の時間を支援した。従来は各クラスの正担任の裁量、負担が非常に大きかったため、この体制は一定の効果はあったと考えられるが、正担任1人で1クラス約40人(およそ10グループ)ほどの探究学習に伴走することは難しいという意見が挙がっており、学校全体で生徒の探究学習をサポートする体制を構築することが必要である。

令和6年度は、正担任1人で担当するのではなく、副担任や学年団、キャリア研究部、コーディネーターが一丸となる体制づくりを図りたい。

### ②生徒の興味・関心に基づいたテーマがなかなか見つからない。

本校はこれまで、1年次に探究学習の練習をする際には地域、2年次の探究学習では日本、国際社会など、課題設定の枠組みを設けた上で、生徒が自ら探究する課題やテーマを定めてきた。その際、その課題やテーマ、リサーチクエストンがあまりにも卑近なものであったり、総合的な探究の時間で取り扱うにはスケールが大きすぎるものであるなどして、探究の体裁が整っていないグループ

が多く存在していた。しかし、総合的な探究の時間で探究を行う際には、生徒が自ら興味・関心のある課題、テーマを発見し、その解決を図ることが肝要であるため、教員側が課題を設定したり、生徒の身の丈に合った（とこちらが考える）テーマに誘導するのではなく、生徒の興味・関心を刺激し、その幅を広げられないかという観点でアプローチを試みた。それが令和5年度入学生より実施の学校設定科目「くまの学彩」である。詳細は後述するが、1学年は総合的な探究の時間で探究の基礎を学び、学校設定科目「くまの学彩」で様々なジャンルの講演、体験学習などを行って生徒の興味・関心の幅を広げ、その2つが両輪となって2年次の探究につながるようにデザインした。このアプローチに効果があったかは現1年生が探究を行う令和6年度に改めて検証したい。

③探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない。（単なる調べ学習で終わってしまう生徒が多い。）

1年次に探究の基礎を学ぶ際、課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現という探究の流れと、それを発展的に繰り返す探究のサイクルについての理解を深めることを意識して指導した。さらに、1年生が探究の基礎を学んだ後、2学期より探究学習の練習（模擬探究）を行うにあたり、前年度まではクラス内発表に留まっていたものを、クラス内発表の質疑応答で見つかった改善点・教員からのフィードバックを取り入れて再び探究を行い、その上で、学年末にクラスをまたいだ学年内発表を行った。これにより、生徒は単に一度まとめたものを発表するのが探究ではなく、そこから再び発展的に活動を継続するというサイクルを理解することができたと思われる。

また、発表の際に課題、テーマ、問い、仮説、研究手法などを明示するように形式を揃えさせ、またその意味についても理解できるよう心懸けて指導したことで、発表資料の体裁を統一させることもできた。

2年生についても同様に、年度当初に探究の基礎、探究のサイクルについて1年次に学んだことをふり返り、それを意識して年間を通じて探究を行った。

④情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている。

生徒が探究活動を行う際に、その全ての段階で情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっていることも、本校の総合的な探究の時間の問題点の一つである。総合的な探究の時間が単なる調べ学習で終わってしまう生徒が多いのは、このことも大きな要因であると考えられる。また、以前は図書館で文献を探したり、実際に街に出てインタビューを行う生徒も一定数は見られたが、1人1台端末の実現により、この傾向は以前より強まっている。

そこで、令和5年度は、コンソーシアムや地域の機関・専門家と連携してイン

ターネットの情報だけではなく、生きた情報を集められる工夫をするとともに、インターネットで情報収集をすることを前提として、どうすればより根拠のある資料を生徒が見つけられるのかという観点からも課題の解決を試みた。

1 学年では学校設定科目「くまの学彩」において、和歌山県庁企画総務課データ利活用推進班に講演を依頼し、探究学習におけるデータ利活用の意義やインターネットで情報を収集する際の注意点、高校生でもアクセスできる官公庁等のデータなどについてレクチャーしていただいた。大変分かり易く、実用的な内容であったため、令和6年度以降も各学年の総合的な探究の時間で講演を依頼したい。

また、図書館司書より、過去に作成された探究活動の記録を検索できるように、レファレンス協同データベース（研修版）についての提案を受けた。このデータベースは、国立国会図書館が無料で提供している、全国の図書館に寄せられた調べ方についてのオンライン上の検索ツールで、参考文献や引用サイトなどを生徒に随時記録させることで、情報カードとしても活用できるものである。研修版であれば、自校のみの公開で運用する事が可能だが、システムの見やすさの面から課題があると判断し、今年度の採用は見送った。今年度は、2 学年の中間発表会でまとめたポスターと個人レポートについては、図書館にて常時閲覧できるように保管することとした。グループごとに仕分け、ポスターについては、画像化を行ったうえで、図書館のオンライン蔵書検索システムにテーマからの検索を可能にする予定である。今後はこのことについて生徒への周知を徹底し、先輩の探究の成果を後輩が継承する流れを作りあげたい。

⑤生徒にとって、ポスター発表が活動のゴールになってしまっている。

2 年次は、年度当初に各クラスでグループをつくり、課題、テーマを設定した上で年間を通じて探究を行う。その際、毎年2 学期後半に、中間発表会の位置づけで、体育館でポスター発表会を実施している。これはあくまで中間発表会であり、質疑応答の時間にうまく回答できなかった質問や見学者、教員からのフィードバックを受けて発表後の探究につなげるためのものである。しかし、現状は生徒にとってポスター発表会が活動のゴールになってしまっているということが、本校の課題の一つである。

令和5年度は、1 学年については上述の通り探究の基礎を学ぶ際に探究のサイクルについて理解させ、さらに中間発表会の目的や意義についても指導した。

また、この課題は、生徒に伴走する教員の意識・関わり方にも影響を受けるものであるため、2 学年については、学年の総合的な探究の時間担当者を中心として、生徒だけではなく、教員間でも、ポスター発表会はあくまで中間発表会であることを徹底して意識づけした。

⑥総合的な探究の時間の評価をどうするか。

総合的な探究の時間、学校設定科目「くまの学彩」、各教科・科目の探究学習における生徒の学びをどのようにして評価するか、その評価方法の開発も、本校の課題である。令和5年度は、ルーブリック評価の開発等、キャリア研究部と教務部とで評価についても検討したが、未だ本校独自の評価方法の開発には至っていない。

令和6年度は、探究を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力等を基にして、先進校視察や先行事例の研究を通して、本校に合った評価方法を開発したい。

(3) 令和6年度に向けての検討事項・課題

①1学年

総合的な探究の時間の在り方を再考する。1年次は、2年次の探究に向けてスキル学習等を中心に構成するか、探究に親しみを持てるような活動を主に行うべきか、それとも2年間かけて探究を行うような計画をたてるべきか等、1年次の総合的な探究の時間の位置づけについて、改めて検討する。

②2学年

総合的な探究の時間の柱となる2学年の探究を、どのようにして充実させていくか。現在は毎週金曜日7限の45分間のみの探究活動になっているため、どのようにして時間を確保するか。上述のように、教員による生徒のサポート体制をいかにして再構築するか。生徒が本当に興味・関心のあるテーマで探究ができるように、どのようにしてグルーピングをするか。新学科設置に向け、本校の総合的な探究の時間をどれほど充実・深化させられるか検討する。

③3学年

総合的な探究の時間の在り方についても引き続き検討する。1年次・2年次の探究の成果を個人でふり返りまとめる活動を行っているが、今後はそれを地域に還元したり、下級生に継承するような活動を取り入れたい。また、進路探究が単なる進路指導にならないよう、令和6年度に向けて年間指導計画を作成する。

(4) 令和6年度の取組

① 1 学年 < 探究基礎・プレ探究 >

学期	月	日	テーマ	内容
1 学期	4	1 9	ガイダンス①	総合的な探究の時間のガイダンス。
	5	1 0	探究基礎①	3 学年の成果発表を見学し、探究のプロセス・サイクルを学ぶ。
		2 4	探究基礎②	問いをたてる練習をする。
	6	7	探究基礎③	仮説をたてる練習をする。
		1 4	探究基礎④	研究手法・研究倫理について学ぶ。
		2 1	探究基礎⑤	情報の収集について学ぶ。
	7	5	探究基礎⑥	データの見方・考え方について学ぶ。
		1 2	振り返り①	探究基礎の振り返りを行う。
2 学期	8	3 0	ガイダンス②	プレ探究のガイダンス。
	9	6	プレ探究①	探究計画書の作成。
		2 7	プレ探究②	
	1 0	1 8	プレ探究③	
		2 5	プレ探究④	
	1 1	1	プレ探究⑤	
		6	プレ探究⑥	計画に基づき、探究を行う。
		8	探究基礎⑦	中間発表・質疑応答の意義を学ぶ。
		1 5	探究基礎⑧	2 学年の中間発表会を見学する。
	1 2	2 2	プレ探究⑦	計画に基づき、探究を行う。
		6	プレ探究⑧	
		1 3	プレ探究⑨	
3 学期	1	2 0	プレ探究⑩	
		1 0	プレ探究⑪	
		1 7	中間発表①	中間発表（クラス内発表）を行う。
	2 4	中間発表②		
	2	3 1	プレ探究⑫	発表資料の修正を行う。
		7	プレ探究⑬	
		1 3	成果発表	成果発表（学年内発表）を行う。
2 1		振り返り②	今年度の振り返りを行う。	
3	1 3	探究基礎⑨	2 学年の成果発表会を見学する。	

### 【1】今年度の取組

今年度の1学年の総合的な探究の時間は、1学期の「探究基礎」、2学期以降の「プレ探究」という2つの活動に大別して取り組んだ。生徒はまず探究基礎において、総合的な探究の時間ではこれからどのような学習をしていくのか、探究とは何か、といった探究の基礎的な内容を学び、その上で2学期以降に、2年次に本格的な探究を行うためのプレとなる探究の練習を行った。

### 【2】令和5年度からの改善点

令和5年度も同様に、1学期に基礎的な内容を学ばせた上で、2学期以降に探究の練習を行った。探究基礎で生徒が学ぶ内容や、年間指導計画の修正等の微調整は行ったが、今年度新しく取り入れた活動は、以下の2点である。

#### (i) 年度当初の、3学年代表グループによる成果発表の見学

今年度は、総合的な探究の時間を始めるにあたり、年度初めに体育館において、3学年の代表グループによる成果発表を1学年生徒に見学させた。これは、高校に入学して初めて探究に取り組む1学年生徒にこれからの活動をイメージさせることを目的として行った活動である。この活動を取り入れることで、1学期に学ぶ内容が、今後自分たちが取り組む探究でどのように役に立つのか、何故身に付けておかなければならないかを理解した上で探究基礎に臨ませることができた。

#### (ii) 年度末の、2学年代表グループによる成果発表の見学

今年度は、年度末に体育館において、2学年代表グループによる成果発表会を実施し、それを1学年生徒に見学させた。これは、2学年の分野別探究の成果を継承するとともに、探究で苦労した点や改善点等の探究の過程も継承することを意図して取り入れた。この活動を取り入れたことで、令和7年度2学年の分野別探究がさらに充実することが期待できる。

### 【3】令和7年度に向けての課題

本事業の指定を受けるまで、1学年の総合的な探究の時間は、当該学年の裁量で、年度によって内容にばらつきがあった。しかし、3年間の研究開発で、探究基礎→プレ探究というプログラムを構築できた。今後は探究基礎で学ぶ内容を精選し、いかにプレ探究、2年次の分野別探究で実践させるかが課題である。

②2 学年 < 分野別探究 >

学期	月	日	テーマ	内容
1 学期	4	1 9	ガイダンス①	総合的な探究の時間のガイダンス。
			ユニット結成式	自己紹介・アイスブレイク。
	5	1 0	調べ学習①	テーマを決めるために、分野の調べ学習を行う。
			調べ学習②	
		2 4	調べ学習③	
			調べ学習④	
	6	7	グループ結成①	探究したいテーマに基づいて、ユニット内でグループを結成する。
			グループ結成②	
		1 4	問いの設定①	探究するテーマから、問いを設定。
	問いの設定②			
	問いの設定③			
	7	5	仮説の構築①	問いに対する仮説を構築。
			仮説の構築②	
		1 2	仮説の構築③	今後の分野別探究の計画書を作成。
探究計画書の作成①				
2 学期	8	3 0	情報の収集、整理・分析①	計画に基づき、情報の収集と整理・分析を行う。
			情報の収集、整理・分析②	
	9	6	情報の収集、整理・分析③	
			情報の収集、整理・分析④	
		1 3	発表資料の制作①	中間発表に向けて、発表資料を制作。
			発表資料の制作②	
	2 7	発表資料の制作③		
		発表資料の制作④		
	1 0	1 8	発表資料の制作⑤	
			発表資料の制作⑥	
	2 5	模擬発表①	ユニット内で模擬発表を行う。	
		模擬発表②		
	1 1	1	発表資料の修正①	中間発表に向けて、発表資料を修正。
			発表資料の修正②	
8		発表の練習①	中間発表に向けて、発表の練習。	
		ガイダンス②	中間発表の流れや意義を学ぶ。	

3 学期	1 2	1 5	中間発表	中間発表（学年内、ポスターセッション）を行う。
		2 2	探究計画書の修正①	中間発表を振り返り、今後の探究計画を再考する。
			探究計画書の修正②	
		2 0	情報の収集、整理・分析⑤	修正した計画に基づき、情報の収集と整理・分析を行う。
	情報の収集、整理・分析⑥			
	2 0	情報の収集、整理・分析⑦		
		情報の収集、整理・分析⑧		
	1	1 0	発表資料の制作⑦	成果発表に向けて、発表資料を制作。
			発表資料の制作⑧	
		1 7	発表資料の制作⑨	
			発表資料の制作⑩	
		2 4	発表資料の制作⑪	
発表資料の制作⑫				
3 1		発表の練習②	成果発表に向けて、発表の練習。	
		発表の練習③		
2		7	模擬発表③	ユニット内で模擬発表を行う。
			模擬発表④	
	1 3	成果発表①	成果発表（学年内発表）を行う。	
	2 1	振り返り①	今年度の振り返り、実施報告書の作成、ユニット解散式を行う。	
振り返り②				
3	1 3	成果発表②	成果発表（代表グループ）を行う。	

### 【1】今年度の取組

今年度の2学年の総合的な探究の時間は、令和5年度に本校の総合的な探究の時間を検証した際に挙がってきた、「正担任1人が各クラスを担当するため、きめ細やかな指導が困難である」・「生徒の興味・関心に基づいたテーマが設定できていない」・「情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている」・「探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない」・「中間発表として行うポスターセッションが生徒の活動のゴールになってしまっている」といった課題を解決するために、大幅な変更を加えて実施した。

## 【2】令和5年度からの改善点

まず、「正担任1人ではクラスの生徒（約40人）の探究に伴走することが難しい」・「生徒の興味・関心に基づいたテーマ設定ができていない」という課題を解決するために、今年度は「分野別探究」と題して、ユニット制で探究を行った。具体的には、初めに生徒に探究したい分野についての希望調査を実施し、その希望に応じてクラスの枠を超えた分野ごとのユニットを編成した。生徒はユニットに分かれた後にその分野についての調べ学習を行い、その上でテーマを設定し、グループ編制を行ったことで、自分の興味・関心と近い生徒とグループを組むことができ、探究したいテーマで探究を行うことができるようになった。また、今年度は8分野の10ユニットを2学年の正担任・副担任10名がそれぞれ担当したことで、1人の教員が伴走する生徒の数を減らすことができ、前年度までと比較すると、手厚いサポートが可能になった。

次に、「情報収集がインターネットの情報検索に終始してしまっている」という課題を解決するために、今年度は、フィールドワーク許可願を事前に提出すれば、総合的な探究の時間の時間内に、生徒のみで校内を出ることを認めた。フィールドワーク許可願には目的や場所を記載させ、実施報告書まで提出させたことで、実りのあるフィールドワークにすることができた。これにより、前年度までは、インターネット上の情報や画像を発表資料に掲載するグループが多かったが、今年度は、実際に市役所や地域の商店でインタビューした内容や、地域の観光地や飲食店で撮影した写真を踏まえて発表を行うグループが見られた。

「探究の基礎・探究のサイクルを意識した活動になっていない」・「中間発表として行うポスターセッションが生徒の活動のゴールになってしまっている」という課題は、年度末に成果発表会を実施することで解決を試みた。本校はこれまで、中間発表会としてポスターセッションを2学期に体育館で実施し、成果発表は年度末にクラス内で実施してきた。そのため、今年度は成果発表を学年内発表に変更し、さらにそこで代表グループを選抜し、その後に代表グループによるステージ発表を1学年生徒にも見学させた。これにより、生徒にとって中間発表が探究のゴールではなくなり、また探究のサイクルを意識して探究に取り組むことができるようになった。

【3】令和7年度に向けての課題

今年度のユニット制を導入して実施した分野別探究は、令和5年度までの本校の総合的な探究の時間の諸課題を解決する方策として、有効であった。3年間の研究開発を経て、本校の総合的な探究の時間のハード面を構築することができたため、今後は生徒がより充実した探究ができるよう、個々の教員の伴走スキルを向上させることが課題である。生徒が充実した探究を行うにあたり、個々の教員にはその分野・テーマの専門性ではなく、探究の伴走についての専門性が求められる。令和7年度以降も、定期的に校内研修を設定するなどして、教員の探究への理解を深めたい。

③3学年 < 自己探究 >

学期	月	日	テーマ	内容
1 学期	4	1 9	ガイダンス	総合的な探究の時間のガイダンス。
	5	1 0	自己探究①	高校2年間の学びを振り返り、過去と現在の自分を探究する。
		2 4	自己探究②	自分が卒業後に進む分野の今後について調べ、未来の自分を探究する。
	6	7	自己探究③	
		1 4	小論文講座①	課題文を読み、主張と根拠のある小論文を執筆する。
		2 1	小論文講座②	
	7	5	自己探究④	自分の進路についての小論文を執筆する。
		1 2	自己探究⑤	
2 学期	8	3 0	面接講座①	面接の基礎について学ぶ。
	9	6	面接講座②	
		1 3	面接練習①	前回学んだ面接の基礎を実践する。
		2 7	面接練習②	
	1 0	1 8	集団討論講座①	集団討論の基礎について学ぶ。
		2 5	集団討論講座②	
	1 1	1	集団討論練習①	前回学んだ集団討論の基礎を実践する。
		8	集団討論練習②	
		1 5	自己探究⑥	小論文・面接・集団討論を経て、再び今年度の自己探究を振り返る。
		2 2	振り返り	今年度の振り返りを行う。

### 【1】今年度の取組

今年度の3学年の総合的な探究の時間は、前年度までと大きな変更を加えてはいないが、「自己探究」と題して、これまでの探究と、これからの自己のキャリアを接続させることを意図してデザインした。

### 【2】令和5年度からの改善点

令和5年度までの3学年の総合的な探究の時間は、小論文講座や面接講座などを中心に構成されていたが、今年度はこれまでの学びの振り返りや今後の自己のキャリアについて考える活動を取り入れ、3学年の総合的な探究の時間が、単なる進路指導にならない工夫をした。

具体的には、まず生徒がこれまでの学びを振り返り、入学してから現在までの間にどのような資質・能力が身に付いたか、過去の自分と現在の自分を探究した。その後、生徒一人ひとりの希望する進路に応じて、その分野・業界の将来の課題を調べ、将来自分が直面する課題を解決するためには高校を卒業してからどのような資質・能力を育まなければならないか、未来の自分と現在の自分を探究した。

このような活動を取り入れることによって、生徒にとって目の前の進路実現が人生のゴールなのではなく、これまで培った資質・能力を活用しながら、今後次々と現れる課題を解決していくことがキャリア形成につながるという意味で探究は続いていくことを生徒が理解することができた。

### 【3】令和7年度に向けての課題

今年度は、これまでの3学年の総合的な探究の時間を見直したが、課題はまだいくつも残っていると考える。その中で最も大きな課題が、本校の生徒にとって、1学年・2学年で取り組んできた探究と、自己の進路実現が結びついていないことである。本校のほとんどの生徒が、2年次までに取り組んできた探究を、進路実現において活用することができていない。

探究は決して目の前の進路実現のためだけに行われるものではなく、より広義の意味での進路実現、キャリア形成のために行われるべきである。そのことを教職員がよく理解して、決して探究が目の前の進路実現のためだけのものにならないように意識しながらも、生徒が自己の進路実現と結びついた探究ができるよう、1年次より自己のキャリアを見通した探究ができるようなサポートを心懸けたい。



### 3. 学校設定科目「くまの学彩」

---

#### (1) 令和4年度の検討内容

- 令和7年度の新学科設置に向けて、令和5年度より1学年で学校設定科目「くまの学彩」を先行実施する。
- 毎週金曜日6限に実施し、副担任が担当する。SDGsや「くまの」地方に関連するテーマのもと、教科書では学べない事柄について、外部講師の講演や体験学習などを行い、2年次の探究につなげられるように幅広い知識を身に付けることを目的とする。
- 事前学習、講演や体験学習、振り返りを1セットして、年間10セット程度を予定する。内容はコンソーシアムの方々等と協力しながら、3年間を見通して年間計画を作成するものとする。
- 今後の持続性を考慮して、各分掌で主催していた外部講師の講演などを整理して学校設定科目「くまの学彩」の取組に再構成することや、外部講師に頼らず教員で独自教材を開発して実施することも含めて学習内容を構成したい。

#### (2) 令和5年度の取組

##### ①令和4年度の検討内容からの変更点

事前学習・講演や体験学習・振り返りの3時限を1セットとし、1年間で10セット程度実施するという計画だったが、外部講師との日程調整上の都合で、講演や体験学習を1時限で完結するものとし、毎週異なるテーマを学習するものに変更した。1つのテーマを深掘りして学ぶというよりは、2年次の総合的な探究の時間に向けて、1つでも多くの社会的な諸課題の入り口を生徒に見せることにより、興味・関心の幅を広げられるような設計にした。ただし、内容によっては事前学習を実施することもあった。

取り扱うテーマに関しても、2年次の総合的な探究の時間を見越し、SDGsや「くまの」地方に限定せず、地域・国内・国外・共通というカテゴリーと歴史・観光・医療・金融・スポーツなどといったジャンルを組み合わせることで、生徒が様々な課題に触れられるようにデザインした。

##### ②学校設定科目「くまの学彩」(1学年)の学習の流れ

毎週金曜日6限に実施し、副担任が担当した。原則、外部講師による対面の講演会やオンライン研修、体験学習を、体育館・各HR教室・校外で実施。生徒は毎回振り返りシートにメモをとり、感想や疑問点の記述に留まらず、授業後には今回のテーマで次年度探究をしたらどのような問いがたてられるかまでを記入することとした。振り返りシートは正担任が内容を確認した後に「くまの学彩ファイル」に保管し、学年末に一斉に1年間の内容を振り返るようにした。

### ③学校設定科目「くまの学彩」（1学年）のねらい

1年次の学校設定科目「くまの学彩」は、前述の通り、地域・国内・国外・共通というカテゴリーと、歴史・観光・医療・金融・スポーツといった様々なジャンルを組み合わせた講演・体験学習等を毎週異なるテーマで実施し、生徒の興味・関心の幅を広げることをねらいとした。そうすることで、2年次の総合的な探究の時間で、興味・関心に応じて自ら課題設定をすることができる生徒を育てたいと考える。

1年次の総合的な探究の時間では、2年次に向けて探究の基礎を身に付けるため、1年次の学校設定科目「くまの学彩」と総合的な探究の時間とが両輪となって、生徒の問題発見力や課題解決力を育めるようにカリキュラムデザインを行った。

### ④学校設定科目「くまの学彩」（1学年）の具体的な取組

#### 【 1学期 】

- 第1回 5月26日(金) 地域 × 観光  
新宮市の観光について / 新宮市役所商工観光課
- 第2回 6月9日(金) 地域 × 環境  
ジオパークについて / 南紀熊野ジオパークセンター 本郷宙軌氏
- 第3回 6月16日(金) 国外 × 食糧問題  
国連セミナー（事前学習）
- 第4回 6月23日(金) 国内 × 人権  
人権問題について / 新宮市役所人権政策課
- 第5回 7月7日(金) 国外 × 食糧問題  
国連セミナー / 元国連WFPアジア地域局長 忍足謙朗氏
- 第6回 7月14日(金) 共通 × SDGs  
SDGs de 地方創生カードゲーム /  
SDGs de 地方創生カードゲーム公認ファシリテーター

#### 【 2学期 】

- 第7回 9月1日(金) 共通 × 探究  
データの見方・考え方 / 和歌山県庁企画総務課データ利活用推進班
- 第8回 9月8日(金) 国内 × スポーツ  
ハイパフォーマンススポーツについて /  
国立スポーツ科学センター 久木留毅氏
- 第9回 9月15日(金) 地域 × 医療  
和歌山県と新宮市の健康 /  
東京医療保健大学和歌山看護学部 南部泰士氏

- 第10回 9月29日(金) 地域 × 歴史  
くまの曼荼羅絵解きプレ発表 / 曼荼羅クラブ 本校生徒
- 第11回 10月13日(金) 地域 × 観光  
世界の旅人を魅了する熊野の魅力とは /  
和歌山県庁社会福祉財団、元世界遺産センター所長 山西毅治氏
- 第12回 10月20日(金) 地域 × 環境  
高速道路開発とヤマネ保護 (事前学習)
- 第13回 10月27日(金) 国内 × 司法  
検察庁の役割とは? 裁判員裁判とは? / 和歌山地方検察庁
- 第14回 11月1日(水) 国内 × 人権  
人権鑑賞会 / ちゃんへん.氏
- 第15回 11月10日(金) 地域 × 防災  
防災スクール / 新宮市消防本部、自衛隊
- 第16回 11月15日(水) 地域 × 環境  
高速道路開発とヤマネ保護 / 湊秋作氏、国土交通省、二村直司氏他
- 第17回 12月8日(金) 地域 × 防災  
JR講演 / JR西日本
- 第18回 12月15日(金) 国外 × 平和  
ユネスコ講演会 / 新宮ユネスコ協会会長 中谷剛氏

【 3学期 】

- 第19回 1月12日(金) 国内 × 租税  
租税制度について / 和歌山税務署
- 第20回 1月19日(金) 地域 × 歴史  
画像でたどる新宮・熊野の近代史 / 中瀬古友夫氏
- 第21回 1月26日(金) 国外 × 金融  
身近にある「金融・国際金融」の話をしましろう / 鈴木和巳氏
- 第22回 2月2日(金) 地域 × 歴史  
熊野古道の歴史と歩く意義 / 元世界遺産センター職員 本校教員

(3) 令和6年度に向けての検討事項・課題

地域・国内・国外・共通というカテゴリー分けをしたが、それぞれの実施回数に偏りができてしまった。同様にジャンルもより幅広いものにするべきであり、令和6年度は全体のバランスを調整しながら計画を組みたい。令和5年度は先行実施の初年度ということもあり、毎週講演を設定したが、次年度はより計画的に段取りをして、必要に応じて事前学習・事後学習の機会を設け、生徒の学びを意義あるものとしたい。また、振り返りシートについても、より良いものにしたい。

(4) 令和6年度の取組

①学校設定科目「くまの学彩」(1学年)の具体的な取組

【 1学期 】

- 第1回 4月19日(金) ガイダンス
- 第2回 5月10日(金) 地域 × 観光  
新宮市の観光について / 新宮市役所商工観光課
- 第3回 5月24日(金) 国内 × 司法  
検察庁の役割とは? 裁判員裁判とは? / 和歌山地方検察庁
- 第4回 6月7日(金) 国内 × 租税  
租税制度について / 和歌山税務署
- 第5回 6月14日(金) 地域 × 環境  
ジオパークについて / 南紀熊野ジオパークセンター 本郷宙軌氏
- 第6回 6月21日(金) 国外 × 平和  
国連セミナー(事前学習)
- 第7回 7月5日(金) 国外 × 平和  
国連セミナー / 元国連WFPアジア地域局長 忍足謙朗氏
- 第8回 7月12日(金) 振り返り①

【 2学期 】

- 第9回 9月5日(木) 国外 × 外交  
外務省高校講座「日本を外から眺める」 / 外務省 山崎茉莉亜氏
- 第10回 9月6日(金) 国内 × スポーツ  
運動と心拍数について / 岐阜大学教育学部 上田真也氏
- 第11回 9月13日(金) 地域 × 医療  
和歌山県と新宮市の健康 /  
東京医療保健大学和歌山看護学部 南部泰士氏
- 第12回 9月27日(金) 国内 × 医療  
新しい看護師の働き方 / 沼澤幸子氏
- 第13回 10月18日(金) 国外 × 人権  
「自分ごと」として考える男女共同参画の課題 /  
NPO政策研究所 相川康子氏
- 第14回 10月21日(月) 地域 × 環境  
高速道路開発とヤマネ保護(事前学習)
- 第15回 11月8日(金) 地域 × 防災  
JR講演 / JR近畿
- 第16回 11月13日(水) 地域 × 環境  
高速道路開発とヤマネ保護 / 湊秋作氏、国土交通省、二村直司氏他

- 第17回 12月6日(金) 振り返り②
- 第18回 12月13日(金) 国内 × 宇宙  
宇宙へ行こう！～串本からロケットが飛ぶ理由～ /  
和歌山県立串本古座高等学校 藤島徹氏
- 第19回 12月20日(金) 国内 × 医療  
心の健康 / 和歌山県庁こころの健康推進課 亀井孝太郎氏

【 3学期 】

- 第20回 1月10日(金) 国外 × 平和  
ユネスコについて—平和・世界遺産・アウシュビッツ・熊野古道— /  
新宮ユネスコ協会会長 中谷剛氏
- 第21回 1月17日(金) 国外 × 平和  
ユネスコについて—平和・世界遺産・アウシュビッツ・熊野古道—  
(事後学習)
- 第22回 1月24日(金) 地域 × 環境  
林業の現在と課題 / 東牟婁振興局林務課、ヤマハ発動機株式会社
- 第23回 2月7日(金) 地域 × 歴史  
熊野古道の歴史と歩く意義 / 元世界遺産センター職員 本校教員
- 第24回 2月21日(金) 振り返り③

②令和5年度からの改善点

前年度に挙げた課題を検討し、令和6年度はまず振り返りシートをリフレクションシートと改称し、授業後の振り返りの部分を、「どのような問いがたてられるか？」というものから、「講演・体験学習で何が印象に残り、前後で自分がどのように変容し、今後はどうつながられるか」という内容に変更した。次に、令和6年度は学期に一度、振り返りの時間を設けた。生徒は各講演・体験学習後に記入したリフレクションシートをその時間に振り返り、グループで振り返りを共有することで、個々の学びをさらに深めることができた。

令和7年度からは当初の計画に戻って、事前学習→講演・体験学習→事後学習で1セットとして1つのテーマを深掘って学ぶ予定である。今年度振り返りの時間を設定したことはそのことを想定したものであり、令和7年度以降は、事前に調べ学習を行った上で講演・体験学習に臨み、その後のリフレクションにつなげるサイクルをまわしたい。





#### 4. 授業研究（6つの資質・能力を育む授業）

---

##### （1）令和4年度の取組

令和4年度は、「教科横断型授業」をテーマに、教科の異なる教員を3～4人ずつの10グループに分け、1グループにつき1つの授業案を考え実践してもらったという形をとった。授業内容についても、教科横断型授業として新たな教材を探してもらったのではなく、1年間の学習の中で、他教科の教員の視点が入ることにより授業内容が充実するようなものを各グループで検討してもらった。実際に研究授業を実践した教科・科目は以下の通りである。

○日本史×化学	「科学的な視点から歴史を考察する」
○情報×社会×理科	「地球温暖化について、様々な観点から考える」
○英語×地学	「Eco-Tour on Yakushima」
○古典×美術	「古代の色・かさねの色目」
○英語×音楽	「新宮高校の校歌の英語バージョンをつくろう」
○数学×体育	「自分に最適なペースで持久走をするためには」
○物理×体育	「どうすればボールをより飛ばせるか物理的根拠をもって解析する」

##### （2）令和5年度の取組

令和5年度は、前年度の教科横断型授業に引き続き、①探究的な学びを取り入れた授業、②生徒1人1台端末を活用した授業の2つのテーマから任意に1つ選んでもらい、各教科で研究授業に取り組んでもらった。研究授業は教務部が企画・統轄を行ったが、キャリア研究部と連携し、総合的な探究の時間における探究と各教科・科目における探究の違いなど、取組の意図や目標を教員に示した。授業研究を通して、学校全体で新学科の特色や授業の在り方を考えるきっかけとなるような働きかけを心がけた。

##### （3）令和6年度の取組

令和6年度は、令和7年度の新学科開設以降に、全教員が共通認識を持って教科の授業に探究学習を取り入れられるよう、探究を取り入れた研究授業に取り組んだ。今年度は、新学科のスクール・ポリシーに掲げた6つの資質・能力（問題発見力・課題解決力・創造力・表現力・主体性・協働性）のどれかを選び、その資質・能力を育む授業を行うという方向性を示した上で、研究授業に取り組んでもらった。今年度実施した研究授業は以下の通りである。

○論理国語	… 課題解決力・表現力
○言語文化	… 主体性・協働力
○国語探究（学校設定科目）	… 創造力・協働力
○公共	… 問題発見力・協働力
○数学A	… 問題発見力・課題解決力・協働力
○化学	… 課題解決力・表現力
○英語コミュニケーションⅡ	… 表現力・協働力
○英語コミュニケーションⅠ	… 主体性・協働力
○体育	… 課題解決力・協働力
○音楽Ⅰ	… 創造力・協働力

今年度の研究授業は、各教科の指導の専門性を向上させるという研究授業本来の目的に加え、新学科で取り組む探究授業について、教科の垣根を超えて、全教員で考えることを目的に据えた。そのための工夫として、まずは研究授業担当者と教科の異なる教員にも授業のねらいやポイントが伝わるよう、本校独自の研究授業シートを作成した。従来の指導案に加えて、研究授業シートで授業のねらいや、授業のどの部分で上記の資質・能力が育まれるのかを示すことで、誰が読んでもどのような研究授業なのか理解できるように配慮した。

また、原則研究授業の当日の放課後に研究協議を実施し、教科の異なる教員や研究授業を参観できなかった教員の参加も促した。

研究授業シートの導入や、研究協議に気軽に参加するよう呼びかけたことで、今年度は例年と比べて研究協議への参加率が高く、全教員で今後の授業の在り方を考える気運が醸成された。

#### （４）令和7年度に向けての課題

令和6年度を取組で挙げた課題の1つ目は、今年度の研究授業で取りあげた資質・能力に偏りがあることである。取りあげた資質・能力としては協働力が圧倒的に多く、対して問題発見力や課題解決力、創造力が取りあげられる回数が少なかった。1年間を通して、6つの資質・能力が各教科・科目でバランス良く取りあげられることが理想であるため、次年度はその点についても働きかけを行う必要がある。2つ目は、6つの資質・能力が各教科・科目の授業で育まれているかを測る指標がないことである。これは本校が最優先で解決すべきであるため、先進校の事例を参考にしながら、教科・科目の探究を取り入れた授業で活用できるルーブリック評価等の策定に取り組みたい。



## 研究授業シート

### 1. 授業プラン

教科・科目	担当者
日時	クラス（場所）
資質・能力	
今回の授業の概要 （自由記述）	
今回の授業のポイント （コレで資質・能力を育む！）	

### 2. 研究協議（ 月 日 曜 : ~ 場所 : ）

参観メモ （参観時に記入）	
協議メモ （協議時に記入）	

令和6年度研究授業 研究授業シート例1

令和6年度 和歌山県立新宮高等学校

研究授業シート



1. 授業プラン

教科・科目	芸術・音楽 I	担当者	
日時	令和6年11月1日(金) 3限	クラス(場所)	音楽室
資質・能力	③創造力 ⑥協働能力		
今回の授業の概要 (自由記述)	身近にあるコップを使い、手拍子や机を打つ音などを組み合わせて音楽を表現する「Cups」を行う。基本の動きを身に付けた上で音色の違いや特徴に気づき、グループで演奏表現を工夫しながらオリジナルのパフォーマンスを創作し、発表する。		
今回の授業のポイント (コレで資質・能力を育む！)	グループでテーマを決め、アイデアを出し合いながら自分たちのイメージする表現を目指す。協力して一つの音楽表現を創り上げる活動を通して、創造力・協働能力を育む。また、グループでの一体感ある演奏に面白さを感じながら感性を高め、身近にある音楽で生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

2. 研究協議 ( 月 日 曜 : ~ 場所 : )

参観メモ (参観時に記入)	
協議メモ (協議時に記入)	

令和6年度研究授業 研究授業シート例2

令和6年度 和歌山県立新宮高等学校

研究授業シート



1. 授業プラン

教科・科目	数学 I	担当者	
日時	令和6年11月8日(金) 4限	クラス(場所)	I年I組(HR教室)
資質・能力	①問題発見力 ②課題解決力 ⑥協働能力		
今回の授業の概要 (自由記述)	<p>数学I「三角比」の単元では、有名角と呼ばれる<math>30^\circ</math>、<math>45^\circ</math>、<math>60^\circ</math>の角度を元にした三角比を用いて計算することが多い。有名角以外の角度であっても三角比は存在するが、有名角以外の角度の三角比は近似値として扱うのみとなっているのが現状であるため、有名角以外の三角比について考察する機会とする。</p> <p>本授業の流れは以下の通りである。</p> <p>①特定の図形を用いて、<math>75^\circ</math>の三角比の値をグループで考えさせる。                  ②三角比の相互関係や<math>90^\circ - \theta</math>の三角比から<math>75^\circ</math>に関連する三角比を計算させる。                  ③数学II「三角関数」の単元で扱う加法定理を紹介する。</p>		
今回の授業のポイント (コレで資質・能力を育む！)	<p>図形の条件から情報をまとめ課題を明確にするなどの問題発見力や、論理的に考察し数学的に問題を処理するための課題解決力、グループ活動を通してクラスメイト同士の協働力を高めることを目指した授業展開を図る。その後、数学IIで扱う加法定理を紹介することで、来年度の数学II「三角関数」の単元の体系的理解へつなげたい。</p>		

2. 研究協議 (        月        日 金曜        :        ~        場所 :        )

参観メモ (参観時に記入)	
協議メモ (協議時に記入)	

### Ⅲ 運営指導委員会報告

## 1. 第1回運営指導委員会

---

- 日 時 : 令和6年6月26日(水) 13:30~14:30  
場 所 : 和歌山県立新宮高等学校 視聴覚3・オンライン  
出席者 : 運営指導委員、コーディネーター、  
新宮高等学校教職員(学校長、全日制教頭、事務長、進路指導部長、  
教務部長、キャリア研究部長)

### 概 要

- (1) 校長挨拶
- (2) 運営指導委員の紹介  
コーディネーター・新宮高等学校教職員の紹介
- (3) 「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」の取組状況について
  - ①令和7年度学科改編に向けての進捗状況
  - ②令和6年度(第3年次)の取組
    - 【1】今年度の探究的な学びについて
      - 総合的な探究の時間(1学年~3学年)
      - 学校設定科目「くまの学彩」(1学年・2学年)
      - 教科・科目等における探究学習
    - 【2】次年度に向けての課題
      - 教科・科目等における探究学習の研究
      - 探究学習の評価
      - 学校設定科目「くまの学彩」(3学年) 令和7年度~
      - 学彩探究科と普通科の総合的な探究の時間の特色
- (4) 運営指導委員による指導・助言

#### 運営指導委員A

令和6年度の年間計画では、総合的な探究の時間で3月14日(金)に1年生と2年生との交流会が設定されている。1年生にとっては来年度の総合的な探究の時間の見通しが立てる機会となるが、2年生にとって、交流会を開くことにはどのような意義があるか。

#### キャリア研究部長

交流会は、1年生にとっては探究の成果だけでなく、プロセスも継承してもらえる機会として設定した。2年生にとっては探究の振り返りになると考えている。自分たちのこれまでの1年間の活動を振り返り、探究学習で身に付けた資質・能力を把握し、自覚することにもつながる。

### 運営指導委員A

2年生にとっては、自分の成長を改めて実感する場になるということで理解できた。このような交流会は、どうしても1年生側に視点がいきがちになるが、2年生にこの授業の位置づけをしっかりと伝えてもらえれば、より内容的に充実してくると思う。

### 運営指導委員B

総合的な探究の時間と学校設定科目「くまの学彩」についてはよく計画できているので、生徒の学習状況をきちんと見取りながら進めるとよい。

質問であるが、ポスター発表会や日頃の探究活動におけるICTの利活用状況はどのようになっているか。ICTの利活用は、生徒の学びの広がりや深まり、協働学習の充実に直結してくる問題である。また、生徒にとってもICTを使いこなせるリテラシーがないと、情報が入ってもそれを受け止めて加工することができない。

### キャリア研究部長

生徒は一人一台端末を持っているので、各教科の授業や総合的な探究の時間で使用しているが、本校の回線の問題で一つの学年で約200人の生徒が同時に端末を立ち上げるとうまく作動しないことがある。そのため、総合的な探究の時間においては、紙ベースでできる活動は紙でしている。

授業時間外ではかなりICTを活用している。特に2年生の分野別探究では、Teamsでユニットの担当教員と生徒がやりとりをしている。

### 運営指導委員C

ICTは1つのツールであって、使用すること自体が目的ではないことに留意するように。探究では、実際のフィールドワークや体験が大事である。そのことを踏まえた上で、ICTを活用すること。

昨年度の取組の中で、生徒や教員にはどのような成長、課題が見られたか。

### キャリア研究部長

1年生の学校設定科目「くまの学彩」では、様々な分野の講演や体験学習を行って生徒に色々なジャンルに対する関心を持たせ、広がった興味・関心に基づいて2年生で探究学習をすることを1つのねらいにしていた。そのため、ねらい通りに今年度に分野別探究ができているという点で意義があったと考える。

また、生徒のキャリア教育としての側面も学校設定科目「くまの学彩」にはあると考える。

教員としては、探究学習を行う上で、担当教員だけでなく学年団や学校組織としてどのように生徒を指導していくかという点において教員の意識が低いことが分かった。

#### 運営指導委員D

年間計画はしっかりできている。生徒たちが、このスケジュールで教員の支援を受けながらどれだけしっかりと協力して調べていけるのかという点に非常に興味を持った。

来年度に普通科と学彩探究科が始まったとき、総合的な探究の時間で両学科それぞれの特色を出すことができるのか。

#### キャリア研究部長

学彩探究科で行う探究は普通科改革支援事業で研究してきた探究の取組を反映させていきたい。

学彩探究科は3学年とも総合的な探究の時間と学校設定科目「くまの学彩」がある。1年生の総合的な探究の時間で探究の基礎を学び、学校設定科目「くまの学彩」で興味・関心の幅を広げる。2年生で2つを合わせて分野別探究を行い、3年生でその成果を下級生や地域に還元する。

普通科の生徒に対しては別の観点からの探究学習を提供したい。構想段階だが、学彩探究科の生徒は分野横断的な観点や学際的な観点から探究し、普通科の生徒は地域のことや自分自身のことについての課題を探究するような探究学習になればと考えている。

#### 運営指導委員C

探究学習や体験学習では「事前指導・本番・事後のまとめ」が大事である。事後のまとめで、どのように自分と他者で意見をもみ合うかが非常に重要なので、どのようなまとめをさせるのかをよく考えなければならない。

また、新宮高等学校の運営指導委員会の会議時間は毎回1時間程度と短く、なかなか一人ひとりの委員がゆっくりと発言する時間がない。

さらに、現場の生徒たちを見ていないので様子を把握しづらい。運営指導委員や関係者が授業中の生徒たちの様子を見られたら、より活発な意見が出るのではないか。

#### 運営指導委員E

先生方が一生懸命取り組んでいることが分かった。今年度も頑張ってもらいたい。

## 2. 第2回運営指導委員会

---

日 時 : 令和6年11月15日(金) 15:00~16:00  
(分野別探究中間発表会後)

場 所 : 和歌山県立新宮高等学校 視聴覚3

出席者 : 運営指導委員、コーディネーター、  
新宮高等学校教職員(学校長、事務長、進路指導部長、教務部長、  
キャリア研究部長)

### 概 要

- (1) 校長挨拶
- (2) 運営指導委員の紹介  
コーディネーター・新宮高等学校教職員の紹介
- (3) 令和7年度学科改編に向けての進捗状況報告
- (4) 運営指導委員による指導・助言

#### キャリア研究部長

昨年度まではクラス単位で総合的な探究の時間を実施し、クラス内でグループを作ってから探究するテーマを決めていたため、一人ひとりの生徒が必ずしも探究したいテーマで探究していたわけではなかったが、今年度はクラスの垣根を越えて探究したいテーマで探究を行っている。

また、今年度は総合的な探究の時間と学校設定科目「くまの学彩」の2コマ続きで探究活動ができています。

さらに、正担任と副担任合わせて10人で指導しています。

そのため、どの全てのグループにおいて、探究の体裁を整えられていると考えています。昨年度までは、単なる調べ学習で終わっているグループも多かった。

次は、探究の質を上げることが課題です。今後、外部の方とのさらなる連携を模索しています。

また、担当教員の探究への伴走スキルを高めることも課題です。

#### 運営指導委員A

昨年度に引き続き、1学年の学校設定科目「くまの学彩」で「高速道路開発とヤマネ保護」というテーマで校外学習を担当したが、昨年度と比較すると、今年度の1学年は生徒の意欲の向上が見られた。また、教員の意識も向上し、生徒と教員との温かいつながりが感じられた。

本日の中間発表会は、発表を聞く側の生徒が例年より集中していたように感じられ、発表側の生徒が良い緊張感を持っていた。このことから、生徒の探究への意欲の向上と、成長が感じられた。

中間発表会の改善点としては、もう少し実際に自分たちが体験したり調べた

りすることへの熱意があればよいと思った。また、研究手法を書いていないポスターがあったので、きちんと記すようにさせるとよい。

#### 運営指導委員B

ここまでたくさんのグループのポスターセッションが見られる機会はなかなかないので楽しかった。

探究の過程、ポスターの中身について教員がどれだけ手助けしているのかが気になった。というのも、発表内容に関して、もう少し発表前に調べられたのではないかと思うものがあった。

物事を評価する視点や批判的に見る視点を育てていくと、もっと活動が違ったものになるのではないか。その視点を子どもたちにどのように伝えていくか、どのように育てていくのかが今後の課題である。

また、発表後の質疑応答も課題である。発表までに、ポスターだけではなく、想定問答集を作るなどしてもよいのではないか。

#### 運営指導委員C

疑問を持つ力こそが、探究に必要な力であると考え。その意味では、生徒の探究へのモチベーションは高まっていると思う。もっと生徒同士が互いの探究に対して疑問を持ち合えることができれば生徒が自走できる。そのために、思考力を高められる学習活動を学期の適当なタイミングで設定できるとよい。

中間発表会については、「～を知りたい」をテーマにしたグループは、概ね今回の中間発表で探究が完結してしまっているように感じた。逆に、「このようなことをしたい、作りたい」など今後の展望を内包したような発表もあった。後者のように、「～したい」というところまで持っていける探究活動にしてもらいたい。

#### 運営指導委員D

中間発表会までに探究は何時間行ったか。

#### キャリア研究部長

1 学期後半までは課題設定に時間を割いたため、実際の探究活動はそこからである。担当者としても物足りなさ感じている。担当教員の伴走がもっとできたのではと思う。

#### 運営指導委員D

厳しく評価すると、小学生、中学生でもこれぐらいの発表はできる。生徒の探

究の質を上げることが今後の大きな課題である。

例えば、探究のテーマと発表している内容が一致していないグループがたくさん見られた。

ポスターの様式であったり、ユニバーサルデザインへの配慮等、全グループが統一しなければならない枠組みを学校側で決めておくとうい。

発表を聞く側の生徒が記入していたアドバイスシートも、どの程度役に立っているのか疑問に思う。コメントでアドバイスをすることはそれなりに意味があるが、A～Cの評価を書く欄はあまり意味がない。A～Cで評価をするならば厳密な評価基準を示すことが必要である。

また、1グループにつき質疑応答を含めて10分間の発表であったが、時間が余っているグループが多かった。活発な質疑応答を意識するなど、発表の場に対する意識が育っていない。発表グループにプレッシャーをかけるような、本質的な質問があまりなかった。

発表時間の全てを生徒に委ねることが良いのかどうか考えてもよいのでは。

#### 運営指導委員E

グループによって探究への温度差があるように感じられた。探究への意欲が伴っていないグループもあった。良い発表をするグループがあれば、それがモデルとなってまずは同級生に広がり、さらに下級生に広がっていく。そのことを教員側が意識して今後の探究への伴走を進めていくとうい。探究への意識が高いグループが見本となっていくように。

課題の設定について、もう一度教員側で計画しなければならない。生徒が設定した課題が、今後の深い探究につながっていくものなのか、調べたら終わりそんなことなのか、ある程度各グループの課題が出そろった時点で学年会議を持つなどして全員で検討するとうい。

情報の収集については、前回の運営指導委員会でも指摘したが、ICT環境を強化する必要がある。オンラインミーティングで専門家からのアドバイスを受ける機会は重要な機会である。

整理・分析があまりできていないことが問題である。そのため、高校レベルの探究になっているか疑問に思うグループがたくさん見られる。専門家と生徒をつなぐことが必要である。また、それぞれの担当教員の専門教科と探究の分野をリンクさせるのも手段の一つである。

例年発表でクイズを出すグループが多く見られるが、クイズを出すことが探究学習と言えるのか。そのことも含めて、発表への指導ができておらず、共通理解ができていないことがうかがえる。

#### キャリア研究部長

発表の中身や質については、運営指導委員の先生方と同じ意見である。生徒のモチベーションも関係しているが、教員の探究への関わり方に課題があると考えている。

今年度は、教員や生徒から、専門家につないでほしいとの依頼がなかった。

#### 運営指導委員D

年間計画の中で、中間発表の位置付けがぼんやりしているように感じられた。誰にとっての、どのような学びの場なのかを整理してみてもよいのでは。

#### キャリア研究部長

中間発表は、発表者側のためになればよいと考える。その点、今回の中間発表会ではもっと活発に質問が出てほしかった。質疑応答が物足りなかった。聞き手側の生徒への指導も必要である。

#### 運営指導委員C

大人が質問のモデルを示すことも一つの方法である。もっと発表会に担当者ではない教員も参加し、質問する姿を見せてもよいのではないか。

#### 運営指導委員D

ただ、生徒が自分から挙手して質問するときは良い質問が出ていた。良い質問をした生徒が、他のモチベーションの低い生徒がする質の低い質問や感想によって、その後に場の雰囲気から質問しづらくなれないか気になった。

### 3. 第3回運営指導委員会

---

日 時 : 令和7年2月6日(木) 13:30~15:00  
場 所 : 和歌山県立新宮高等学校 視聴覚3  
出席者 : 運営指導委員、コーディネーター、  
新宮高等学校教職員(学校長、全日制教頭、事務長、進路指導部長、  
教務部長、キャリア研究部長)

#### 概 要

- (1) 校長挨拶
- (2) 運営指導委員の紹介  
コーディネーター・新宮高等学校教職員の紹介
- (3) 学科改編に向けての令和6年度の取組の報告
- (4) 令和7年度新学科(学彩探究科・普通科)について
- (5) 運営指導委員による指導・助言

#### 運営指導委員A

この3年間の研究の過程で、生徒たちに変容はあったか。生徒の変容を見えるような形で残し、それを教員がどう捉えるかというところも大切である。

次年度に計画されている3年生の卒業レポートは教員の教育活動の振り返りにも使え、さらに深い探究や学彩探究科がより良くなっていく方向につながるのではないか。

#### キャリア研究部長

生徒は以前に比べると楽しみながら探究学習に取り組んでいる。この事業を機にカリキュラムを整えたことで、生徒たちは総合的な探究の時間は探究する時間という意識を持つようになった。

課題としては、評価を作りあげられていないこと。この3年間、探究活動を作りあげるところに重きを置いてしまい、本来は同時並行で進めていかなければならない評価方法について研究ができなかった。そのため、生徒の変容を数値化したものや生徒の声をこういった場で提示できない。

#### 運営指導委員B

先日に参加したポスター発表について、生徒が以前よりアクティブになり、探究のクオリティも高くなっていた。色々なテーマがあったが、もっと体験をして知識をつけてからテーマを決める方がよいと感じた。

前回は述べたが、生徒と教員の信頼関係が強まっており、年々生徒も教員も探究への意欲が向上している。

今年度の授業研究の取組は、研究授業を取り組み易い形にし、さらに研究授業

を参観していない教員も放課後の研究協議に参加できるというフランクな形をつくったことは良かったと思う。

教員が変わると生徒も変わる。教員に探究のテーマに関する専門性は必要ないが、教員が役立つ情報を与えてあげると生徒たちはよりアクティブになる。外部人材バンクの構築も考えているということで、今後はより多様な情報を、外部人材を通して生徒に与えられる体制を構築してもらいたい。

また、探究では体験が非常に重要で、体験の利点は、発見することである。体験すると感性が豊かになることに加え、知識が腑に落ちる。体験の後の事後学習で生徒同士が互いに磨き合い、刺激し合うことによって新しいものが生まれる。

#### 運営指導委員C

研究授業で教員がテーマにする6つの資質・能力について偏在性は発生しているか。

#### キャリア研究部長

偏りはあって、「創造力」を取りあげての研究授業はなかった。「表現力」や「主体性」、「協働力」が多い印象を受けている。

#### 運営指導委員C

6つの資質・能力をバランスよく生徒に身に付けさせていくことで、学彩探究科で育てたい生徒像に近づくので、残り3つの資質・能力（問題発見力・課題解決力・創造力）をどのようなパートで鍛えあげていくのか検討してもらいたい。

これからも、新宮高校としての伴走の仕方を探して、研究成果を出してもらいたい。

また、学彩探究科と普通科の総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」のような労力のかかる取組を継続していく校内体制はできあがっているか。

#### キャリア研究部長

この事業に取り組むにあたって、令和4年度にキャリア研究部という新しい分掌ができた。この3年間、キャリア研究部長主体で研究を進めてしまった部分があるが、大枠はできあがったので、次年度からはキャリア研究部員や一般の先生方に担当してもらえるところもあると思っている。

#### 運営指導委員C

総合的な探究の時間と学校設定科目「くまの学彩」が新宮高校の根幹となってくるところだと思う。背骨の部分はメインの教員が作り、それぞれのソフトの部

分は担当者に割り当てて、バランスよくしてもらいたい。

#### 運営指導委員D

事業の1年目は学校設定科目「くまの学彩」と総合的な探究の時間につながりが見えなかったが、そこからの2年間で、学年間につながりや学校設定科目「くまの学彩」と総合的な探究の時間につながり、探究的な学びと教科の学習とのつながりという形で、うまくつながりが生み出されるようなカリキュラムができあがってきたと思う。6つの資質・能力を総合的な探究の時間、学校設定科目「くまの学彩」、各教科・科目の授業でどのように育てるかももう一度整理する必要がある。

今後の課題としては、まずカリキュラムマップを作成して学校全体で考えていくこと。次に、1年次の学校設定科目「くまの学彩」で事前学習を取り入れることはよいと思うが、その事前学習の内容をどのようなものにするかなどが挙げられる。

また、探究の成果物を残すのであれば、レポートという形式以外にも、探究の成果を動画で撮影したり、文章ではなくパワーポイントでまとめることなどできる。成果を残すだけでなく発信するところまでしてもよいのではないか。

#### 運営指導委員E

この3年間を通して学校全体としての変化と学校の改善が着実に進んでいる。だからこそ、次年度は新しい取組に着手するより、優れた取組を学校文化として定着させていくよう、今年度までの取組の点検と検証の期間があってもよいのでは。

また、総合的な学習の時間や総合的な探究の時間でよく学習している生徒は、その過程で対人関係スキルを身に付けたということと、自己の成長という2つの成果があがっているという研究結果がある。今年度作りあげた6つの資質・能力も、生徒の対人関係スキルの側面と自己の成長という側面で捉えた上で評価の観点を増やしていくと、より生徒の学びを着実に見取って評価することができるのではないか。

さらに、総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」と、教科・科目の探究との接合も今後考えていってもよいのでは。総合的な探究の時間や学校設定科目「くまの学彩」において、ワークシートの中に、今回学んだことが各教科・科目の授業とつながっているところがあるか、あるとすればどの科目のどの単元とつながりがあるか、といった質問項目を入れて生徒に書かせてみる等。その生徒の反応を、教員一人ひとりの授業改善につなげる。

#### 運営指導委員F

生徒の視野を広げるために普段から色々と工夫している先生たちは大変だと思っている。今後も頑張ってもらいたい。

#### 運営指導委員B

学彩探究科で生徒に卒業レポートを書かせるという案はよい。書くことでその内容を他者に話すことができるようになる。卒業レポートは、普通科の生徒にも書かせた方がよいのではないか。成長をどう見取るかということは教育界の大きなテーマで、客観的な分析ができないかと多くの教育学者や教育実践者が取り組んでいるところである。その点、人間の内実は言葉に現れるため、今後客観的な変化や成長を見る工夫をしていくと、関わった者たちが共有できるデータになる。

最後に、今年度は教員が「伴走」をしたということであったが、「並走」するというのはどうか。

## IV 学彩探究科・普通科 (令和7年度設置) について

# 新宮高校の挑戦!



近年、社会はかつてないスピードで変化しています。それに伴い、社会で必要とされる力も変化しています。これまでのような、知識の習得だけを重視する勉強では、大学入試の突破も、社会に出てからの活躍も難しくなっています。

## 学彩探究科

※定員の一部を全国募集します

### 「学彩」(がくさい)とは?

「学彩」には、分野横断的な学びという「学際」の意味や「多様な学びを要する」という思いが込められています。新宮高校に縁の深い「学彩」と書がけ、新宮高校らしい新しい学びの創造も試しています。

教科書での知識習得だけに留まらない、

**「もっと知りたい!」を大切にします!**

学校設定科目の「くまの学彩(仮)」をはじめとして、学際的な探究を取り入れた授業を展開していきます。「学際」とはあまり聞かない言葉かもしれませんが、これは従来の文系、理系の枠にとらわれない、いくつかの学問領域にまたがって行っていることをさします。このような教科横断的な学びと、探究的な学びを取り入れることにより、生徒の「もっと知りたい!」を追究していきます。知識を深化させていくことを通して、変化の激しい現代社会でリーダーやイノベーターとして活躍する実力をつけていくことが、この学彩の目標です。

### 教育課程表

1年次【1週間4.5コマの授業展開】											
現代の課題	芸術文化	歴史・地理	国語	英語	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	職業科目	総合科目
2	3	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
2年次【1週間5.0分×3.3コマの授業展開を予定】											
基礎	公民	数学B	数学C	数学I	数学II	化学	生物	英語	英語	職業科目	総合科目
2	2	2	4	2	2	2	2	1	4	2	2
3年次【1週間5.0分×3.3コマの授業展開を予定】											
基礎	物理	化学	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	職業科目	総合科目
2	2	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2

近年、増加している総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応し、様々な入試形態で勝負できる実力を付けていきます

### 学彩の進路目標

国立大学、難関私立四年制大学

# — 学科リニューアールと探究的な学び —



新宮高校では、学科を再編し、各自の学習スタイルにあった授業を展開することにも、探究的な学びを積極的に取り入れ、地域の生徒たちの力を伸ばし、これからの社会で活躍できる人材の育成に注力していきます。

## 普通科

他者と協働しながら学び、

**「理解できました!」を大切にします!**

学校の授業で大切なことは、まず教科書の内容をしっかりと理解することです。分りやすく、丁寧な授業を展開していくことで、生徒の「理解できました!」を大切にしていきたいです。また、確かな知識を蓄えながら、探究的な学習も取り入れることによって、自ら課題を追究し解決していく力、他者と協働する力を養っていきます。学力の基礎を固め、身に付けた幅広い知識を活用して主体的に行動し、これからの社会で活躍できる人材を育成することが、この学彩の目標です。

### 教育課程表

1年次【1週間4.5分×3.5コマの授業展開】											
現代の課題	芸術文化	歴史・地理	国語	英語	数学A	化学基礎	生物基礎	体育	保健	職業科目	総合科目
2	4	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
2年次【1週間5.0分×3.3コマの授業展開を予定】											
基礎	公民	数学B	数学C	数学I	数学II	化学	生物	英語	英語	職業科目	総合科目
2	2	2	4	2	2	2	2	1	4	2	2
3年次【1週間5.0分×3.3コマの授業展開を予定】											
基礎	物理	化学	英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語	職業科目	総合科目
2	2	2	3	4	2	2	2	2	2	2	2

### 学彩の進路目標

私立四年制大学、短期大学、専門学校、就職、公務員など

全日制 学彩探究科

【 アドミッション・ポリシー 】

- ・将来地域社会や国内外でリーダー・イノベーターとして活躍したいという希望を持ち、その目標に向けて本校で学ぶことのできる生徒を求めます。
- ・自ら社会や自己の課題を発見し、その課題を解決する力を身につけたいという意欲を持ち、教科や分野の枠を越えた探究学習に取り組むことのできる生徒を求めます。
- ・向上心を持って部活動や学校行事に積極的に取り組み、また地域での活動やボランティア活動、外部コンテストへの参加等、主体的に課外活動にも取り組むことのできる生徒を求めます。
- ・思いやりの心を持ち、いじめや差別を許さない生徒を求めます。

【 カリキュラム・ポリシー 】

- ・確かな学力の伸長を図り、主体的で対話的な深い学び、個別最適な学び、ICTの利活用、教科・科目横断型授業など創意工夫を凝らした授業を行います。
- ・主体性・協働性・問題発見力・課題解決力・創造力・表現力等の、将来の予測が困難な現代社会を生き抜くための資質・能力を育むために、「総合的な探究の時間」、学校設定科目「くまの学彩」、各教科・科目の授業において、探究的な学びを充実させます。
- ・将来地域社会や国内外で活躍できるよう、豊かな人間性や社会性を育むため、地域や専門機関と連携しながら、幅広い年齢層や多様な分野で活躍する人々との交流や、生徒主体の諸活動の充実を図ります。
- ・国際社会で活躍できるよう、海外の姉妹校との交流やさまざまな国際交流企画への積極的な参加、語学に関する資格取得などを推奨します。
- ・地域社会や国内外でリーダー・イノベーターとなるために必要なコミュニケーション能力や倫理観を養うため、部活動や生徒会活動、地域ボランティア活動等への参加を推奨します。

【 グラデュエーション・ポリシー 】

- ・将来リーダー・イノベーターとして、地域社会や次世代の日本社会、国際社会に貢献したいという確固たる意志を有している。
- ・地域社会や国内外でリーダー・イノベーターとして活躍するための、確かな学力を基盤とした、主体性・協働性・問題発見力・課題解決力・創造力・表現力等が身に付いている。
- ・地域社会や国内外の諸課題を仲間とともに解決していくための豊かな人間性と社会性が育まれている。

令和7年度入学生 学彩探究科 教育課程表

1年次【1週間45分×35コマの授業展開】

現代の国語	2	言語文化	3	歴史総合	2	地理総合	2	数学I	4	数学A	2	化学基礎	2	生物基礎	2	体育	2	保健	1	芸術I	2	英語COMI	4	論表I	2	情報I	2	くまの学習	1	LHR	1
-------	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----	---	------	---	------	---	----	---	----	---	-----	---	--------	---	-----	---	-----	---	-------	---	-----	---

2年次【1週間50分×33コマの授業展開を予定】

論理国語	2	古典探究	2	公共	2	数学II	4	数学B	2	数学基礎 物理基礎	2	体育	2	保健	1	英語COMII	4	論表II	2	家庭基礎	2	日本研究 基礎研究 応用研究 数学C(1)+化学C	3	文学基礎 物理 生物	2	くまの学習	1	LHR	1
------	---	------	---	----	---	------	---	-----	---	--------------	---	----	---	----	---	---------	---	------	---	------	---	------------------------------------	---	------------------	---	-------	---	-----	---

3年次【1週間50分×33コマの授業展開を予定】

論理国語	2	古典探究	2	倫理 政経	2	体育	3	英語COMIII	4	論表III	2	情報 探究	1	日本研究 基礎研究II 応用研究II 数学III 数学探究II	4	数学探究II 物理 生物	3	古語(1)+ 化学	3	文学基礎 歴史数学 歴史理科 歴史英語	2	英語総合 数学C	2	くまの学習	1	LHR	1
------	---	------	---	----------	---	----	---	----------	---	-------	---	----------	---	---	---	--------------------	---	--------------	---	------------------------------	---	-------------	---	-------	---	-----	---

全日制 普通科

【 アドミッション・ポリシー 】

- ・学力の基礎を固め、身につけた幅広い知識を活用して社会で活躍したいという希望を持ち、その目標に向けて本校で学ぶことのできる生徒を求めます。
- ・自ら課題を設定し解決していく力、他者と協働する力を身につけたいという意欲を持ち、主体的に探究的な学びに取り組むことのできる生徒を求めます。
- ・向上心を持って部活動や学校行事に積極的に取り組み、また地域での活動やボランティア活動、外部コンテストへの参加等、主体的に課外活動にも取り組むことのできる生徒を求めます。
- ・思いやりの心を持ち、いじめや差別を許さない生徒を求めます。

【 カリキュラム・ポリシー 】

- ・確実な知識の習得を図るため、「理解できた」を実感しながら学習内容が定着していく、分かりやすく、丁寧な授業を行います。
- ・主体的で対話的な深い学び、個別最適な学び、ICTの利活用など創意工夫を凝らし、学力の基礎を固める授業を行います。
- ・自ら課題を設定し解決していく力、他者と協働する力を養うため、各教科・科目の授業に加えて、「総合的な探究の時間」において、探究的な学習を行います。
- ・これからの社会で活躍できるよう、豊かな人間性や社会性を育むため、地域や専門機関と連携しながら、幅広い年齢層や多様な分野で活躍する人々との交流、生徒主体の諸活動の充実を図ります。
- ・これからの社会の担い手として必要なコミュニケーション能力や倫理観を養うため、部活動や生徒会活動、地域ボランティア活動への参加を推奨します。

【 グラデュエーション・ポリシー 】

- ・基礎学力と、身につけた幅広い知識を活用して、これからの社会で活躍したいという意志を有している。
- ・これからの社会で活躍するための、主体的に行動する力、課題を設定し解決する力、他者と協働する力等が身につけている。
- ・多様な他者により良い方向をめざして協働するための、素直で真面目な心、強くしなやかで思いやりのある心が育まれている。

令和7年度入学生 普通科 教育課程表

1年次【1週間45分×35コマの授業展開】

現代の国語	2	言語文化	4	歴史総合	2	地理総合	2	数学Ⅰ	4	数学A	2	化学基礎	2	生物基礎	2	体育	2	保健	1	芸術Ⅰ	2	英語COMⅠ	4	論表Ⅰ	2	情報Ⅰ	2	船探	1	L H R
-------	---	------	---	------	---	------	---	-----	---	-----	---	------	---	------	---	----	---	----	---	-----	---	--------	---	-----	---	-----	---	----	---	-------------

2年次【1週間50分×33コマの授業展開を予定】

論理国語	2	古典探究	2	公共	2	数学Ⅱ	4	地学基礎 物理基礎	2	体育	2	保健	1	英語COMⅡ	4	論表Ⅱ	2	家庭基礎	2	日本史探究 地理探究 世界史探究 数学Ⅲ	3	編組Ⅰ+3選Ⅰ 化学 生物	3	基礎Ⅱ スポーツⅠ	2	船探	1	L H R
------	---	------	---	----	---	-----	---	--------------	---	----	---	----	---	--------	---	-----	---	------	---	-------------------------------	---	---------------------	---	--------------	---	----	---	-------------

3年次【1週間50分×33コマの授業展開を予定】

論理国語	2	古典探究	2	倫理 政経	2	体育	3	英語COMⅢ	4	論表Ⅲ	2	教養英語	2	日本史探究 地理探究 世界史探究 数学Ⅲ 数学Ⅳ	4	教養国際Ⅰ+教養社会Ⅰ 教養数学Ⅰ+教養社会Ⅰ 理科探究(化・生・地)	4	文学選読 化学 生物	2	教養理科 教養情報 数学C	2	基礎Ⅲ スポーツⅡ	2	船探	1	L H R
------	---	------	---	----------	---	----	---	--------	---	-----	---	------	---	--------------------------------------	---	---	---	------------------	---	---------------------	---	--------------	---	----	---	-------------

## V 次年度以降の活動について

## 本事業の成果と今後の課題について

---

令和5年度までの課題を引き継ぎ、今年度は、①総合的な探究の時間の充実・深化、②学校設定科目「くまの学彩」の実践、③教科・科目等において探究的な学びを実現するための授業研究を重点的な課題として取り組んだ。個々の具体的な成果と課題については、「Ⅱ令和6年度の具体的な研究開発報告」でまとめた通りであるが、それぞれについて、本事業の指定終了後も検討を重ね、改善を繰り返したい。

総合的な探究の時間は、本校の特色の一つである探究的な学びの中心に位置づけられる。1年次の探究基礎・プレ探究は、前年度の取組を踏襲するのではなく、教職員全体で短期的・中長期的なPDCAサイクルを意識して常に改善を図りたい。生徒が本格的な探究に挑戦する2年次の分野別探究では、生徒と外部人材（大学教授等有識者）とを結びつけられるネットワーク作りを模索中である。生徒の探究テーマに精通する外部人材から直接的に指導・助言を受けることで、生徒の探究をより充実させ、深いものにしたい。また、一人ひとりの教員が探究への理解を深め、生徒の良き伴走者となれるように、校内研修等を開催し、教員の探究への専門性を向上する体制を構築したい。3年次の自己探究も、今年度の反省を踏まえて、2年次までに探究に取り組んだことで身に付いた資質・能力が、自己の進路実現において発揮されるようなプログラムを作りたい。また、令和7年度より学彩探究科と普通科に分かれるため、総合的な探究の時間で扱うテーマも、各学科の特色・コンセプトに応じた内容に分ける予定である。

学校設定科目「くまの学彩」は、令和7年度より、1年次は「学際的な学びの芽生え」、2年次は「学際的な探究への取り組み」、3年次は「学際的な観点を持つリーダー・イノベーターとなるために」と各学年でそれぞれコンセプトを持った取組を実践する予定である。1年次は先行実施期間に取り組んだ実践を、2年次は分野別探究を充実させるために探究のプロセスの各段階で必要となるスキル学習を、3年次は学彩探究科での学びを通じて学際的な観点が身に付けられたかを測る論文執筆を計画している。

教科・科目等における探究的な学びの実現については、令和5年度までの大きな課題であったため、今年度は「本校の教科・科目等における探究的な学び」＝「6つの資質・能力を育む授業」と定義して授業研究を行った。それにより、教職員が共通認識を持って研究授業に取り組むことができ、その後の研究協議も活発なものになった。新学科が設置される次年度以降は、両学科の特色に応じた授業を一人ひとりの教員が実践できるよう、教務部とキャリア研究部が連携してそれぞれの学科で行われる授業をマネジメントする。

本事業の指定は今年度で終了となるが、今後も事業を通して取り組んできた、総合的な探究の時間・学校設定科目「くまの学彩」・教科・科目等における探究的な学びの研究開発に引き続き取り組みたい。探究的な学びで活用できる評価方法の開発、生徒と外部人材を結びつけるネットワークの構築、教科・科目等における探究的な学びの授業実践の蓄積など、まだ課題は多く残るため、今後もこれまでの取組をさらに推し進め、それらの課題を解決し、学彩探究科・普通科の魅力化に取り組んでいきたい。

令和4年度指定  
新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）  
研究開発報告書〔学際領域学科・第3年次〕

発行日 令和7年3月

発行者 和歌山県立新宮高等学校

校長 下村 史郎

所在地 〒647-0044

和歌山県新宮市神倉三丁目2番39号

電話 0735-22-8101 Fax 0735-21-2901

H P <https://www.shingu-h.wakayama-c.ed.jp/>